

罨紙員數ノ定價及原被告人へ下附スル裁許狀罨紙員數ノ定價ハ曲者ヨリ三日内ニ裁判廳へ辨納スヘキ事
第十三條 官許賣捌所ノ外ニテ訴訟用罨紙ヲ販賣スル者ハ其品取上ケ販賣シタル罨紙代ノ百倍又其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ買受ケタル罨紙代ノ五十倍過料可申付事

第十四條 罨紙ヲ贗造スル者又ハ贗造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ其品取上ケ九十圓以内ノ過料可申付事

第十五條 前條ニ掲ル犯則人ヲ見認メ訴出ル者ハ事實取糺シ相違ナキニ於テハ賞トシテ其過料ノ半高下ケ與フヘキ事

(第四百七十五條) 明治八年十二月二十八日第二百七號御

布告

本年十二月十九十六號布告訴訟用罨紙規則中掲載有之候訴訟用及裁許狀罨紙左ノ見本通候條此旨布告候事
之畧

○煙草規則

(第四百七十六條) 明治八年二月二十日第二十八號御布告
煙草ノ儀來ル明治九年一月一日ヨリ課税可致候條此旨
布告候事

但税則ノ儀ハ追テ可及布告事

(第四百七十七條) 明治八年十月四日第百五十號御布告
煙草課税ノ儀本年二月二十八號ヲ以テ布告ニ及ヒ置候
處右税則別紙ノ通相定來明治九年一月一日ヨリ施行候
七三五

條此旨布告候事

紙別煙草稅則

第一則 煙草營業稅

第一條 煙草賣買營業ノ者ハ其管廳へ申出營業鑑札ヲ

受ケ年々左ノ通稅納致スヘキ事

但煙草耕作人ニシテ自作ノ煙草ヲ煙草賣買營業人

へ賣渡ス而已ニテ煙草ヲ請賣セサル者並ニ葉煙草

ノ儘取扱ヒ候者ハ此限ニ非ス

煙草卸賣營業稅

一ケ年金十圓

煙草小賣營業稅

同 金五圓

但卸賣トハ煙草商人へ賣渡スヲ云フ又小賣トハ

自用自己ノ所用ニ供シ賣ノ人へ賣渡スヲ云フ

第二條 卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣

營業鑑札願受ルニ及ハスト雖モ小賣營業鑑札ヲ受ケ

卸賣ヲ兼候儀ハ不相成候事

第三條 最初營業鑑札下渡候節爲手數料金二十錢相納

ムヘキ事

第四條 營業鑑札ヲ受ケタル煙草商人へハ仕入鑑札其

管廳ヨリ相渡候條烟草買入ノ節ハ必ス相携へ可申右

鑑札料ハ一枚ニ付金十錢ツ、相納ムヘキ事

但仕入鑑札ハ一戸一枚ニ限リ候儀ニ無之素ヨリ買

入ノ節必携ノ品ニ付何枚ニテモ入用丈ケ願ニ依テ

相渡スヘキ事

第五條 營業稅上納ノ儀ハ年々兩度ニ區別シ半ケ年分

宛區戶長へ取集メ其管廳へ可相納事

但其年前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七

月三十一日限其管廳へ可相納事

第六條 新規營業免許ノ者六月以前ハ全年分七月以後

ハ半年分營業免許ノ節直ニ營業稅相納廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

但廢業ノ者ハ其節直ニ營業鑑札仕入鑑札_正返納致スヘキ事

第七條 營業鑑札若シ水火盜難過誤等ニテ失却候節ハ

其旨管廳へ届出新規鑑札申受ヘキ事

但爲手數料金二十錢相納ムヘキ事

第八條 營業鑑札仕入鑑札ハ貸借決シテ不相成候事

但改名代換轉居等ノ節ハ其旨管廳へ申立候ハ、鑑

札引換可相渡尤前條手數料二十錢相納ムヘキ事

第九條 卸賣營業ノ者ハ烟草卸賣所ト書記シ又小賣營

業ノ者ハ烟草小賣所ト書記シタル看板へ免許鑑札ノ

番號書加ヘ戶外ニ掲シヘキ事

但卸賣小賣ヲ兼候者ハ烟草卸賣所ト書記シ看板ヲ

掲シヘキ事

第二則 製造烟草印稅

第一條 製造烟草ハ玉作箱詰紙包各種ノ大小斤目ニ不

拘自用ノ人へ賣渡ス節ハ總テ其代價ニ從ヒ烟草印紙

貼用ノ上賣出スヘキ事

但葉烟草ハ總テ印紙相用ユルニ及ハサル事

第二條 製造烟草印紙種類並定價左ノ通候事

長印紙 二十五枚切 定價二錢五厘

印紙 同 五厘

印紙 同 一錢

印紙
印紙

同 五 錢
同 十 錢

第三條 製造煙草印稅割合左ノ通

煙草代價 印稅一厘但長
五錢未滿 印稅五厘
十錢未滿 印稅一錢

同十錢以上 印稅二錢
同二十錢未滿 印稅三錢

同三十錢未滿 印稅四錢
同四十錢未滿 印稅五錢

右以上總テ之ニ準シ印稅增加スヘシ

第四條 煙草印紙貼用方畧圖ノ如ク貼用致スヘキ事
之畧 圖

第五條 煙草印紙ハ煙草印紙賣捌所ト大書シ官ノ燒印
アル看板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣

買禁止ノ事

第六條 仕入鑑札所持ノ煙草商人ヘ賣渡ス製造煙草ニ

限リ印紙貼用ニ及ハス其仕入鑑札ヲ證トシテ賣渡ス

ヘシ尤鑑札所持致サ、ル者ヘハ無印紙ノ製造煙草決

シテ賣渡不相成事

第三則 賞罰例
第一條 卸賣營業鑑札ヲ受ケス營業致候者ハ一ケ年營

業稅ノ七倍科料可申付事

第二條 卸賣營業鑑札借受ケ營業致候者ハ前條同様ノ

科料申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一ケ年營業稅

ノ五倍科料可申付事

第三條 小賣營業鑑札ヲ受ケス營業致候者ハ一ケ年營

業稅ノ五倍科料可申付事

第四條 小賣營業鑑札ヲ借受營業致候者ハ前條同様ノ科料申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一ケ年營業稅ノ三倍科料可申付事

第五條 仕入鑑札所持致サスシテ無印紙製造煙草ヲ買受候歟又ハ右所持致サ、ル者へ無印紙製造煙草ヲ賣渡スモノハ各脫稅高ノ二十倍宛科料可申付事

第六條 仕入鑑札借受候者並貸渡候者ハ其鑑札取上ケ枚數ニ應シ鑑札料ノ十倍宛科料可申付事

第七條 煙草印紙ヲ用ユヘキ製造煙草ニ印紙ヲ貼用セズ自用ノ人へ賣出ス者ハ脫稅高ノ二十倍科料可申付事

第八條 煙草印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ減稅高ノ十倍科料可申付事

第九條 官許印紙賣捌所ノ外ニ於テ煙草印紙賣捌致ス者ハ其品取上ケ既ニ賣捌タル印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ印紙代ノ五十倍科料可申付事

第十條 一旦相用ヒタル煙草印紙ヲ剝取リ再用スル者或ハ之ヲ賣買スル者ハ六十圓以下ノ科料可申付事
第十一條 煙草印紙ヲ贗造スル者又ハ贗造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ科料可申付事
第十二條 前數條ニ掲クル處ノ犯則人ヲ見届ケ訴出ル者アルキハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其科料金ノ半高相與候事

(第四百七十八條) 明治八年十一月十日第百六拾五號御布

告

本年十月第十五號布告烟草稅則第一則第一條中並ニ(葉烟草ノ儘取扱ヒ候者)ノ十二字ヲ刪除シ同則第八條但書左ノ通改正候條此旨布告候事
但改名代換轉居等ノ節ハ其旨管廳へ申立候ハ、鑑札引換可相渡手數料トシテ營業鑑札ハ金貳拾錢仕入鑑札ハ金拾錢相納ムヘキ事

(第四百七十九條) 明治八年十二月二十八日第貳百五號御布告

本年十月第十五號布告烟草稅則第二則中第四條並烟草印紙貼用方畧圖左ノ通改正候條此旨布告候事

第二則

第四條 烟草印紙貼用方畧圖ノ如ク賣主ニ於テ印紙貼用シ其全面ノ中心ヨリ端ニカケ實印或ハ仕切

印ヲ押スヘシ

諸規則罰例全書第十

○國立銀行條例

(第四百八十條) 明治五年壬申十一月十五日第三百四十九

號御布告

貨幣流通之宜ヲ得運用交換ノ際ニ梗阻ノ弊ナカラシム
 ルハ物産繁殖ノ根軸ニシテ富國ノ基礎ニ候處從來御國
 内ニ於テモ爲替兩替等ヲ業ト致シ歐亞各國ニ通稱スル
 「バンク」ノ業体ニ等キモノモ有之ト雖モ其方法之精確ナ
 ラザルト施爲ノ陋拙ナルヨリ充分人民ノ便益ヲ得ルニ
 至ラサルニ付此度政府ノ公債證書ヲ抵當トシテ正金引
 替ノ紙幣ヲ發行スル銀行創立ノ方法ヲ制定シ普ク頒出
 右銀行創立可致尤モ其創立之手續營業之順序等ハ都テ
 別冊國立銀行條例同成規之條款ニ照準シ毎年確實ニ取

扱候様可致候事 畧之規

右之趣各地方官ニ於テ管内不漏様可相達候事

但條例成規ハ書肆ニ於テ發賣差許候條此段モ爲心得

相達候事

別冊 國立銀行條例

目錄

第一條 凡三節

銀行創立ヲ願請スル手續ヲ明ニス

第二條 凡五節

株金ノ募方及創立證書銀行定款ノ差出方ヲ明ニス

ス

第三條 凡五節

開業免狀ノ渡方證書定款鈐印ノ手續ヲ明ニス

第四條 凡八節

銀行起業ノ順序及役員上任ノ制限ヲ明ニス

第五條 凡十四節

株高ノ定規株主ノ權利制限及元金高増減等ノ手

續ヲ明ニス

第六條 凡十六節

銀行元金高ノ制限及其集合方法公債證書紙幣交

收等ノ手續ヲ明ニス

第七條 凡八節

開業免狀ヲ渡セシ後入金ノ割合月賦ノ手續ヲ明

ニス

第八條 凡九節

銀行紙幣ノ製造方及其品類紙幣通用ノ能力並破

損交換等ノ事ヲ明ニス

第九條 凡六節

銀行ヨリ預ケタル公債證書改方並ニ臨時證書ノ入換其他利足受取方之事ヲ明ニス

第十條 凡四節

銀行營業ノ主本及地所物件賣買ノ制限ヲ明ニス

第十一條 凡九節

銀行營業ノ制限貸附金預リ金準備金等ノ定規ヲ明ニス

第十二條 凡六節

銀行ヨリ差出ス報告書計表ノ手續ヲ明ニス

第十三條 凡七節

銀行利益金分割ノ手續ヲ明ニス

第十四條 凡二節

銀行ハ追テ税金ヲ納ムヘキヲ明ニス

第十五條 凡四節

銀行ハ爲替方トナリ大藏省官員ト同シク職務ヲ取ルコアルノ手續ヲ明ニス

第十六條 凡五節

銀行ハ其紙幣引換ノ爲メ別店ヲ開キ又ハ他ノ銀行ニ引換方ヲ依頼スルコトヲ得ルノ手續ヲ明ニス

第十七條 凡四節

銀行ノ事務實際検査ノ爲メ紙幣寮ヨリ検査役派出ノ手續ヲ明ニス

第十八條 凡十五節

銀行ニテ紙幣引換ヲ拒ミシ時ノ處置特例監督役

跡引請人等ノ取扱方並ニ公債證書没入紙幣引換等ノ手續ヲ明ニス

第十九條 凡八節

銀行鎖店ノ手續及其紙幣引換方ノヲ明ニス

第二十條 凡三節

別段ノ銀行モ此條例ニ從テ轉業シ得ルノ手續ヲ明ニス

第二十一條 凡一節

此條例ニテ發行スヘキ紙幣ノ概算ヲ明ニス

第二十二條 凡三節

此條例ノ外他ニ金券又ハ紙幣ノ類ヲ發行スル銀行ヲ禁止スルヲ明ニス

第二十三條 凡二節

銀行ノ訴訟ハ一般ノ處置ト異ナラサルヲ明ニス

第二十四條 凡二節

銀行簿記計表報告書等ノ文例ヲ明ニス

第二十五條 凡四節

銀行ノ役員奉務上ノ禁令ヲ明ニス

第二十六條 凡二節

銀行頭取取締役處務上ノ禁令ヲ明ニス

第二十七條 凡四節

紙幣贗造ノ禁令ヲ明ニス

第二十八條 凡二節

條例更正ノ事ヲ明ニス

通計二十八條 一百六十一節

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債証書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ通用紙幣ヲ受取り引換ノ準備金ヲ設ケテ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 銀行ノ創立ヲ願請スル手續ヲ明ニス

第一節 凡ソ國立銀行ヲ創立セントスルニハ其組合ノ人數ハ必ス五人以上タルヘシ

第二節 此五人ハ即チ發起人タルヘシ而シテ此者共ハ連名ニテ銀行創立ノ願書ヲ紙幣寮ヘ差出スヘシ但郵便ヲ以テ其願書ヲ送達シテモ苦シカラス

第三節 紙幣頭ハ其願書ヲ檢按シ相當ト思量スレハ諸

般ノ手續ヲナシテ後大藏卿ノ許可ヲ得テ其發起人等

ハ會社創立證書並定款ノ差出方ヲ命ス可シ

但紙幣頭ハ右發起人等ノ身分其外トモ隱密ノ探索ヲ遂ケ且其地方官廳ヘ其者共ノ身分營業ノ模様其他ノ條款トモ公然ノ諮問ヲナシ銀行創立ヲ許可スルニ於テ相當ナルヤ否ヲ判按スヘシ

第二條 株金ノ募方及創立證書銀行定款ノ差出方ヲ明ニス

第一節 紙幣頭ノ此命アリテ後發起人等ハ株金ノ募方ニ取掛ルヘシ

第二節 株主等定マリテ後一同ノ協議ニヨリテ銀行創立證書銀行定款ヲ認メ及ヒ頭取取締役ヲ撰任シ諸般ノ手續ヲナシ右證書定款ヲ紙幣寮ニ差出スヘシ

第三節 此創立證書ニ掲載スヘキ要件ハ

第一 銀行ノ名號

但此社號ハ紙幣頭ノ承認ヲ得テ公然ト唱フル
ヲ得ヘシ

第二 銀行ノ業ヲ營ムヘキ地名

第三 元金ノ高並其株ノ内譯株主ノ姓名居所

第四 此條例ヲ遵奉スヘキ人ノ爲ニ便宜ヲ謀リテ

取極タル趣旨

第四節 右ノ證書ハ株主等一同姓名ヲ記シ調印シテ之

ヲ其地方官廳ニ差出シ奥書ヲ乞ヒ本紙並ニ正寫二通

ヲ添テ紙幣寮ニ出スヘシ

第五節 又銀行定款ハ銀行ヲ創立スルニ付テノ要件及

此定例ノ諸款ト齟齬セサル箇條ヲ畧記スルモノナレ

ハ銀行營業ニ付テノ規則書ト心得創立證書ト同ク株

主一同ノ姓名ヲ記シ調印シテ本紙並ニ正寫二通ヲ添

テ紙幣寮ニ出スヘシ

但此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受

ルマテニテ地方官ノ奥書ヲ乞フニ及ハス

第三條 開業免狀ノ渡方證書定款鈐印ノ手續ヲ

明ニス

第一節 紙幣頭ハ右創立證書ト銀行定款トヲ大藏卿ノ

承認ヲ得テ後其銀行ニ開業免狀ヲ與ルノ手續ヲナス

ヘシ

但證書定款トモ本紙ハ記録寮ニ納メ寫一通ハ紙幣

寮ノ公書中ニ綴込ニ一通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ

開業免狀ト共ニ銀行ニ渡ス可シ

第二節 紙幣頭ハ此開業免狀ヲ渡スニハ其銀行株主等
 此條例通り元金ノ入金ヲナセシヤ否ノ狀實ヲ検査シ
 其元金集合ノ都合株主ノ正不正其他ノ事務ヲ視察シ
 不都合ナキ事判然タル上ニテ之ヲ與フヘシ尤モ此開
 業免狀ニ其趣ヲ記載スヘシ
 第三節 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ何々國立銀行ト公
 稱シ其業ヲ始ムルヲ得ヘシ
 第四節 此開業免狀ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ方法ヲ以
 テ少クトモ六十日間世上ニ公告ス可シ
 第五節 紙幣寮ノ官印ヲ加ヘタル開業免狀創立證書銀
 行定款ハ何レノ裁判所何レノ公廳ニ於テモ之ヲ確定
 ノ證據トシテ取用ヒラル、ヲ得可シ
 第四條 銀行起業ノ順序及役員上任ノ制限ヲ明

ニス

第一節 銀行ハ此開業免狀ヲ得ル日ヨリ其社號ヲ以テ
 二十ヶ年ノ間營業ヲ取續ク可シ二十ヶ年ヲ經タル後
 ニハ更ニ免許ヲ願出ツ可シ
 但三分二以上株主ノ存意ヨリテ鎖店スルカ又ハ
 此條例ニ改正アリテ分散スルトアルハ例外タルヘ
 シ
 第二節 銀行ノ頭取取締役等ハ免狀ヲ得ルノ日ヨリ社
 印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省出納寮紙幣寮ヘ
 差出ス可シ
 第三節 此頭取取締役等ハ銀行ノ業ヲ始ムルニ當リ支
 配人會計役書記役其他ノ役員ヲ定メ諸役々ノ勤向ヲ
 取極メ約束ヲ掲ケ罰例ヲ設ケ便宜褒貶進退等諸般ノ

條件ヲ掲載シタル申合規則ヲ取設ク可シ

第四節 此頭取取締役中一人ハ頭取タルヘシ内四分ノ三ハ銀行創立ノ地ニ一ケ年間ハ是非トモ在住シタル者ニ限ルヘシ

第五節 此頭取取締役等ハ少クトモ元金三十株以上ヲ所持シタル者ニ限ルヘシ

第六節 此頭取取締役ハ上任ノ節ニ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ聊モ悖戾セサル旨ヲ認メ地方官ノ與書ヲ加ヘテ紙幣頭ニ差出シ寮中公書ノ綴込ニ加フヘシ

第七節 此頭取取締役等撰任交代ノ手續及ヒ銀行事務施行ニ付テ權任ノ制限等マテ銀行定款ト申合規則中ニ掲載シ置ク可シ

第八節 銀行ノ諸訴訟嘆願書又ハ證書約定書及往復文書等マテ其社號ヲ用ヒ社印ヲ押スヘシ

但約定書證書報告書誓詞等ノ類ハ頭取取締役支配人等ノ名印ヲ加フ可シ

第五條 株高ノ定規株主ノ權利制限及元金高増減等ノ手續ヲ明ニス

第一節 國立銀行元金ノ株高ハ百圓宛ヲ以テ一株トナシ其者ノ望ニヨリテ何株ニテモ之ヲ所持スヘシ

第二節 此株高ヲ所持スル者ハ何レノ族屬何レノ職務アルニ拘ハラス總テ其持高相當ノ權利アルヘシ

但大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係スル者ハ自分ノ名ヲ以テ株主トナルヲ許サス

第三節 此株高ハ全ク株主ノ所有物ナレハ頭取取締役

ノ承認ヲ得銀行ノ元帳ニ引合セシ上ニテ讓渡シテナ
 スト勝手タル可シ

第四節 右ノ讓渡シニテ株主トナルモノモ前株主同様
 ノ條理ヲ踏ミ銀行定款ノ趣旨ニ遵フ可シ

第五節 銀行ノ株主等ハ誰彼ノ差別ナク其營業ニ付テ
 ノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔ス可シ

第六節 大損毛ニテ銀行ヲ分散スルコアルハ第十八條
 ノ手續ニ從フ可シ

第七節 銀行ノ株主等ハ自己ノ勝手ヲ以テ此社ヲ脱ス
 ルヲ許サス

第八節 然リト雖トモ其銀行ニ利益少ナキトキ又ハ其
 外ノ事故アリテ社中三分二以上ノ株主等ノ集議ニヨ
 リテハ此社ヲ鎖店スルコトヲ得ヘシ

第九節 銀行ノ株主等ノ集議ニテ件々ノ議案ヲ論定ス
 ルニハ株主ハ一株ニ付一説宛ヲ出ス可シ

第十節 故ニ三分二以上ノ集論ヲ撰定スルニハ其株高
 ナ以テ之ヲ合計シテ其人員ヲ以テ算當スヘカラス

第十一節 此株主等ハ委任狀ヲ所持スレハ他人ノ名代
 トナリテ其高ニ應シ説ヲ出スコトヲ得ヘシ

第十二節 然レトモ此銀行ノ支配人以下ノ役員ハ其名
 義ニテ銀行ノ株ヲ所持スルトモ眞ノ株主ト認メサル
 ニ付其者共並ニ其株ヲ借金ノ引當トシタル者ハ已ノ
 説ヲ出シ又人ノ名代トナルヲ得ス

第十三節 銀行ノ株主等ハ陰ニ其元金ヲ引取リ他用ニ
 供ス可ラス又其所有ノ株ヲ引當トシテ借財ヲナス可
 テス

第十四節 銀行ノ株主等三分二以上ノ集議ニヨリテハ
 集合元金ノ高ヲ増減スルヲ得ヘシ尤モ其増加ノ高ハ
 大藏卿ノ命ニヨリテ紙幣頭之ヲ定ム可シ又其減少ノ
 高モ此條例ニ於テ取究メタル員數ヨリ減少スルヲ許
 サス且其増減トモ紙幣頭ノ承認ヲ得サレハ之ヲ公然
 トス可ラス

第六條 銀行元金高ノ制限及ヒ其集合方法公債

証書紙幣交収等ノ手續ヲ明ニス

第一節 凡ソ國立銀行ハ人口十万人以上都會ノ地ニ於
 テハ五十萬圓以下ノ元金ニテハ創立スルヲ許サス尤
 モ十萬人未滿一萬人以上ノ地ナラハ二十萬圓ノ元金
 ニテ取建ルヲ得ヘシ
 但一萬人未滿三千人以上ノ地ナラハ大藏卿別段ノ

詮議ヲ以テ五萬圓マテノ元金ニテモ取建ルヲ許
 スコアルヘシ

第二節 國立銀行ハ右元高ノ目的ニ從ヒ其創立ノ許可
 ナ得開業免狀ヲ受ル前ニ大藏省出納寮ヘ政府ノ公債
 證書ヲ預ク可シ

第三節 其高ハ元金高十分ノ六ニシテ次條ニ掲載スル
 入金割合ニ從テ之ヲ上納スヘシ

第四節 此公債證書ハ此條例ニ從テ銀行ヨリ發行スル
 紙幣ノ抵當トナルモノナレハ出納頭ハ此銀行永續中
 ハ正ニ之ヲ預リ置ク可シ

但此公債證書ノ中追テ大藏省ヨリ公債支消ノ節拔
 關ニ當ルモノアレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ
 之ヲ引換ユ可シ

第五節 銀行元金高ノ十分ノ四ハ本位貨幣ニテ之ヲ社
中ニ積立右公債證書ノ代リトシ紙幣寮ヨリ受取ル通
用紙幣ノ引換準備ニ充ツ可シ

第六節 前條ニ掲示スル銀行株主等ノ存意ニテ元金高
ヲ増減スルコトアレハ勿論此公債證書並ニ紙幣引換之
準備正金モ其割合ニ從テ之ヲ増減ス可シ

第七節 右元金高集合ノ割合並ニ公債證書ヲ納メ紙幣

ヲ受取リ準備正金ヲ貯ヘ銀行ノ業ヲ營ム手續ハ如左

第八節 譬ハ元金高五十萬圓ヲ以テ創立スル銀行ナレ
ハ

内

三十萬圓ハ

太政官又ハ民部省ヨリ發行スル金札又ハ大藏省ヨ

リ發行スル新紙幣ヲ以テ直ニ之ヲ大藏省出納寮ニ
納ム可シ

二十萬圓ハ

本位貨幣ヲ以テ銀行ニ積立紙幣引換ノ準備トス可
シ

合如高

但此元金高集合ノ割合ハ次條ノ期限ニ從フ可シ故
ニ公債證書銀行紙幣交收及引換準備正金入金ノ順
序モ其期限ニ從テ何度ニテモ其手續ヲ爲ス可シ

第九節 大藏省ニ於テハ右三十萬圓ノ金札又ハ新紙幣
ヲ銀行ヨリ受取リ諸般ノ手續ヲナシテ後同員數ノ記

名公債證書種別ノ金額ハ數ヲ銀行ニ渡ス可シ

第十節 銀行ノ頭取支配人ハ其公債證書ニ其社ノ見留

印ヲナシ其姓名ヲ書込ニ再ヒ之ヲ大藏省出納寮ニ納
メテ其受取證書ヲ乞受ク可シ

第十一節 此受取證書ハ出納頭紙幣頭ノ連名タルヘシ
且兩寮頭ハ此勘定ニ付テハ互ニ簿冊ヲ開キ詳明ニ之
ヲ記入シ相互ニ之ヲ點檢スルヲ得可シ

第十二節 銀行ハ右公債證書納濟ノ後同員額ノ紙幣ヲ
各種ノ品類ニテ紙幣寮ヨリ乞受ク可シ

第十三節 右乞受ケタル各種ノ紙幣ヘハ其社ノ割印書
込等ヲナシ以テ銀行營業ノ資本トス可シ

第十四節 右ノ計算ニ據テ之ヲ畧言スレハ銀行ハ元金
高十分六ノ金札ヲ以テ公債證書ヲ得其證書ヲ納メテ
紙幣ヲ得他ノ四分ハ正金ニテ右紙幣引換ノ準備トス
ルノ割合ナリ

第十五節 故ニ銀行ニテ其紙幣發行ノ際ニ於テハ常ニ
其三分二ノ割合ヲ以テ準備正金ヲ現存スルヲ交通ノ
定度トシテ紙幣正金トモ便宜之ヲ資用スヘシ
但紙幣ノ皆高ヲ發行シテ後其引換多クシテ三分二
ノ正金ニテ引換方差支ユルコトアレハ其三分一ハ別
ニ他ノ正金ヲ加ヘテ之ヲ引換ヘ聊モ之ヲ拒ミ又ハ
之ヲ怠ル可ラス

第十六節 紙幣發行ノ引當トシテ出納寮ニ納ムヘキ公
債證書ハ太政官又ハ民部省ヨリ發行セシ金札及大藏
省ヨリ發行シタル新紙幣ヲ上納シテ受取リタルモノ
ニ限ルヘシ
右ニ掲クル金札ヲ以テ公債證書ヲ受取リ之ヲ大藏省
ニ納ムルノ手續ハ現時創立ノ處置ニシテ追テ右公債

證書一般ノ交通アル節ハ元金高十分ノ六ハ直ニ其公
債證書ヲ以テ上納シテ紙幣ヲ受取ルヘキ事トス

第七條 開業免狀ヲ渡ス前入金ノ割合及月賦ノ
手續ヲ明ニス

第一節 國立銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ム
ル前ニ少クトモ元金高ノ五割^半高ハ是非共之ヲ銀行
ニ入金スヘシ

第二節 他ノ五割^半高ハ元金高ノ一割^{十分}ナリヲ以テ月賦
ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

第三節 右月賦ノコトハ銀行頭取支配人等誓詞ヲ以テ紙
幣頭ニ請合フ可シ

第四節 若シ株主等此五割ノ入金又ハ月賦入金ヲ怠ル
時頭取取締役等ハ其株ヲ競賣ニ出シ賣拂ノ上其入用

ヲ差引過金アレハ各株主ヘ渡シ遣ス可シ

第五節 若又此競賣ニテモ其株ヲ買取ル人ナケレハ前
以テ入金シタル高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消ス可シ

第六節 此消株ニ付元金高此條例通ヨリ減少スレハ頭
取取締役等ハ三十日ノ間ニ其補ヲナシ定限ノ高ニ滿
タシムヘシ

第七節 頭取取締役等此事ヲ怠レハ紙幣頭ハ其銀行ニ
鎖店ヲ申渡シ跡引請人ヲ命スヘシ

第八節 競賣ニテ買取リタル株高モ其買主ハ他ノ株主
同様ノ權利アルヘシ

第八條 銀行紙幣ノ製造方及其品類紙幣通用ノ
能力並ニ破損交換等ノコトヲ明ニス

第一節 銀行發行ノ紙幣ハ大藏卿ノ指令ニ從テ紙幣頭

其製造ヲ董轄シ紙品板版ヲ精緻ニシ深ク贗摸ノ弊ヲ豫防シ且其印信繪ノ具等マテ充分ノ考按ヲ以テ完備ノ處置ヲナス可シ

第二節 右製造ノ入費ハ紙幣寮ノ費用タルヘシ

第三節 此紙幣ノ品類ハ一圓二圓五圓十圓二十圓五十圓百圓五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ摺立遣スヘシ

但五圓以下ノ紙幣ハ總高ノ五割ヨリ多カラサル可シ

第四節 此紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債引當ヲ以テ發行ノ趣旨並所持人ノ望次第正金引換ノ儀其他ノ要件ヲ掲載シ大藏卿並出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且銀行ニ渡セシ後其銀行ノ印信及書込等ヲ加フ可シ

第五節 此紙幣ハ諸公廳又ハ銀行商會其外ヲ不論日本

國中何レノ地ニ於テモ租稅運上貸借ノ取引俸給其他一切公私ノ取引ニ用ヒテ都テ正金同様ノ通用ヲ得可シ

但公債證書ノ利足ト海關稅ニハ之ヲ用ユルヲ許サス

第六節 若其通用ノ際此紙幣受取渡ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲アレハ其者ハ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第七節 此紙幣通用中敗裂破損等ニテ交通シカタキモノアレハ銀行ヨリ之ヲ紙幣頭へ出シテ代リ紙幣ヲ受取ル可シ

第八節 右代リ紙幣ノ交換ハ紙幣寮ノ簿冊銀行ノ簿冊

等ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣寮ノ官員ト銀行ノ役人トニテ之ヲ燒捨テ其趣ヲ簿冊ニ記シ各調印イタシ置ク可シ

第九節 右燒捨ノ後ハ新聞紙其外ノ手續ニテ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第九條 銀行ヨリ預ケタル公債證書改方並臨時證書ノ入換其他利足受取方ノヲ明ニ

第一節 發行紙幣ノ抵當トシテ銀行ヨリ出納頭ニ預ケタル公債證書ハ毎年一度差支ナシモ銀行ノ役人出納寮ニ至リテ點檢シ本帳ニ引合セテ品種員額等相違ナケレハ改人ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ出納頭へ出スヘシ

但此改人出納寮へ出ル時ハ銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第二節 銀行ノ都合ニヨリテ別種同額ノ公債證書ヲ持參シテ兼テ預ケ置タル公債證書ト引換ヲ望ム時ハ紙幣頭ノ考按ニヨリテ差支ナシトセハ之ヲ聞届ケ其次第ヲ簿記シ出納頭ニ通達シテ引換遣ス可シ

第三節 又銀行ヨリ五千圓以上其社ノ紙幣ヲ返納シテ預ケ置キタル公債證書ヲ取戻シ度趣ヲ願出ル時ハ紙幣頭ハ之ヲ聞届ケ前ノ如ク之ヲ處置ス可シ尤モ其公債證書ノ殘高ハ此條例ニ取極メタル規程ヨリ減少スルヲ許サス

但右引換ヲナシタル手續ハ出納寮紙幣寮ノ簿冊ニ詳記ス可シ

第四節 右公債證書市中賣買ニテ相場下低ノ時ハ紙幣頭ハ銀行へ達シテ其不足ノ高丈ヲ公債證書又ハ正金

第五節 右ノ公債證書ヨリ生スル年々ノ利足ハ其銀行

第六節 然レトモ銀行ニテ紙幣引換ノトチ怠ルカ又ハ

第七節 此條例ニ悖戻スルコトアレハ其利足ヲ取押ユルコトアル

第十條 銀行營業ノ主本及地所物件賣買ノ制限

第一節 國立銀行ハ爲替兩換約定爲替荷爲替預リ金其

餘引請貸借又ハ引當物ヲ取リテ貸金ヲナシ貸借證書

其他ノ諸證券及貨幣地金ノ取引等ヲ以テ營業ノ本務

トナス可シ

第二節 國立銀行ハ地所家屋其他物件ノ賣買ヲ爲ス可

第三節 其條件ハ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ家屋ヲ取建ル爲ニ緊要

ナル場所

第二 貸附金ノ引當トシテ質物トナリタル地所物

第三 貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金

件

ノ代リトシテ引渡タサレタル地所物件

第四節 官廳ノ裁判ニテ賣拂ヒトナリタルモノ銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノ官廳ノ裁判ニテ引取タルカ又ハ質入レ流込トナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スルタメニ賣物ニ出シタル地所物件

第四節 右ノ條件ヲ除クノ外銀行ニ於テハ如何ナル時宜タリトモ地面家屋其他ノ物件ヲ買取ル可ラス

但銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フ可シ
第十一條 銀行營業ノ制限貸附金預金準備金等

ノ定規ヲ明ニス

第一節 國立銀行ニテ商會商社其外へ貸附金ノ制限ハ一口ニ付元金高ノ十分一ヲ限リトス可シ

但儲カナル爲替手形又ハ商賣上ノ取引ニテ暫時間ノ取替ニ等シキモノハ此例ニ非ス

第二節 國立銀行ハ其元金ヲ募リ又ハ社業ヲ營ムニ付銀行ノ紙幣ヲ引當又ハ質物トシテ借金ヲナス可カラ

第三節 銀行ハ又其元金ノ株ヲ引當ニ取リテ貸金ヲ爲

ス可ラス又諸株ノ買主又ハ其株主トナルヘカラス
第四節 然レトモ貸附金ノ滯リニテ銀行ノ損失トナル

トアレハ不得止其株ヲ引當ニ取リ又ハ買取ルヲ得ヘシ併シ其株ハ遅クトモ六ヶ月ノ内ニ之ヲ賣拂フ可シ

第五節 銀行ノ株主等ハ左ノ事故ニ付テハ各其株高ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ承辦ス可シ

但此出金ハ全ク一時承辦ノタメニシテ其株高ト異
ナレハ銀行ノ都合次第之ヲ各株主へ引戻スヲ得ヘ
シ

第一 發行紙幣兌換ノ事故

第二 預リ金渡シ方ニ付テノ事故

第三 諸爲替手形約定手形ヲ渡スニ付テノ事故

第六節 國立銀行ハ他人ヨリ預リタル預リ金總高ノ内

少クトモ二割五分^{二十}分ノ臨時返却ノ用意トシテ常ニ

銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤モ内一割ハ政府ノ公

債證書ニテモ苦シカラス

但此用意積立金ハ決シテ紙幣引換ノ準備金ト混ス
可ス

第七節 國立銀行ノ貸附金利足及爲替手形約定手形荷

爲替兩替等ノ打歩ハ可成丈之ヲ廉價ニスヘシ

第八節 國立銀行ハ貸附金ヲナシ爲替手形ヲ買入レ預

リ金ヲ渡ス等ニ付テ紙幣ヲ遣ヒ出スニ此條例ニテ定

メタル其紙幣發行高三分二ノ準備正金ノ定規ヲ超過

ス可ラス

第九節 若其割合ヲ超過シテ紙幣ヲ發行シ紙幣寮官員

ノ實地検査ニテ露顯スレハ紙幣頭ハ速ニ定規準備金

ヲ増加スヘキヲ命スヘシ若シ命セシ日ヨリ三十日

ヲ過テモ其増加ヲ怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行開業ノ免

狀ヲ取上ケ跡引請人ヲ命ス可シ

第十二條 銀行ヨリ差出ス報告書計表ノ手續ヲ

明カニス

第一節 國立銀行ハ一ケ年四度以上其銀行ノ事務計算

等實地詳明ナル報告書計表等ヲ紙幣頭ニ差出ス可シ
其書式ハ紙幣頭ノ指揮ニ從ヒ頭取取締役之ニ證印ス
ヘシ

但右報告書計表ノ類ハ銀行ヨリ新聞紙又ハ其他ノ
手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二節 銀行ハ其株主等ノ姓名株高ノ内譯宿所等ヲ明
細ニ記シタル表ヲ作り其社ノ用所ニ備ヘ置ク可シ

第三節 銀行ハ又其發行紙幣ノ高殘紙幣ノ現高準備金
ノ現高預リ金ノ高及ヒ其用意積立高別段積金ノ高貸
附金ノ總高及ヒ爲替立替假預リ等ノ差引マテ毎日ノ
帳面差引ヲ明瞭ニシ簡明ナル一覽表ヲ作り其社ノ用
所ニ備置クヘシ

第四節 此計表類ハ紙幣頭ノ命ニヨリテ時々之ヲ紙幣

寮ニ差出スヘシ且銀行ノ株主等ハ銀行ノ事務取扱中
タラハ何時ニテモ銀行ニ來リテ之ヲ點檢スルヲ得可
シ

第五節 紙幣頭ハ尙要用ト思フコトアレハ臨時ノ報告ヲ
銀行ニ命スルコトアル可シ

第六節 若シ銀行ノ頭取支配人等此條例臨時ノ報告ヲ
怠リテ紙幣頭ノ命スル日ヨリ十日ヲ超テ差出サ、レ
ハ十日以外ハ一日ニ百圓宛ノ罰金ヲ命ス可シ

第十三條 銀行利益金分割ノ手續ヲ明ニス
第一節 國立銀行ノ頭取取締役等ハ毎年兩度宛銀行ノ
總勘定ヲナシ其純益ヲ正算シ株高ニ應シテ公平ニ之
ヲ分割ス可シ

第二節 右分割ノ前ニ其利益ノ正算ヲ株主一同ヘ通知

シ且新聞紙ニテ世上ニ公告ス可シ

第三節 其公告セシ日ヨリ十日内ニテ未タ株主へ分割
ヲナサ、ル前ニ其計算ヲ明瞭ニシテ紙幣頭へ差出ス
可シ

第四節 右利益金ノ内少クトモ十分一以上ノ高ヲ除キ
置テ元金ノ二割ニ至ルマテ銀行ノ別段積金トシ臨時
ノ費用ニ供ス可シ

第五節 銀行ハ其業ヲ營ムノ間ハ利益金分割ノ事故又
ハ自余ノ狀實ニ托シテ元金高ノ内ヲ引去ル可ラス

第六節 滯リ貸金又ハ商業ノ失錯其他ノ事故ニテ銀行
ニ損失アリテ元金高減少スレハ銀行ハ利益金ノ分割
ヲ止メテ其不足ヲ補フ可シ若シ其不足高一度ノ利益
金ニテ補ヒ得サレハ何度ニテモ利益金ノ分割ヲ見合

セテ其元高ニ復ス可シ

第七節 慥カナル引當物アルカ又ハ確實ナル引請人ア
ル貸附金ノ外ハ六ヶ月ノ期月ヲ過テ元利トモ返濟ニ
至ラサルハ滯リ貸附金ト看做ス可シ

第十四條 銀行ハ追テ税金ヲ納ムヘキヲ明ニ
ス

第一節 國立銀行ハ追テ成立ニ從テ其益金ノ内ヨリ相
當ノ税金ヲ納ム可シ

第二節 此税金ノ納メ方ハ向後政府ニテ制定スル規程
ニ從ヒ租稅寮ノ指令ニヨリテ上納ス可シ

第十五條 銀行ハ爲替方トナリテ大藏省官員ト
同シク職務ヲ取テアルノ手續ヲ明ニ

ス

第一節 國立銀行ハ大藏卿ノ命アレハ大藏省又ハ各地
方其他ノ爲替方ヲ勤ム可シ其勤向ノ手續ハ大藏卿ノ
考按ニヨリテ其筋ヨリ之ヲ差圖スヘシ

第二節 右爲替方ノ勤向ヲ奉仕スルニ於テハ銀行ノ役
員ハ大藏省ノ官員ト等シク其職務ヲ取ル者ト心得ヘ
シ

第三節 大藏卿ハ右爲替方ヲ命シタル銀行ヨリ徵信ノ
タメ相當ノ公債證書又ハ自余ノ證書ヲ預リ置ク可シ

第四節 是ハ銀行ニ於テ政府ノ貨幣ヲ確實ニ預リ置キ
差支ナク之ヲ仕拂ヒ其職務ヲ手堅ク奉スルコトニ於テ
充分ノ信ヲ表スルタメナリ

第十六條 銀行ハ其紙幣引換ノタメ別店ヲ開キ
又ハ他ノ銀行ニ引換方ヲ依頼スル等

ノコトヲ得ルノ手續ヲ明ニス

第一節 左ニ掲載スル府港ニ創立スル國立銀行ハ紙幣
頭ノ許可ヲ得テ東京大坂ニ於テ各一店ヲ開キ殊ニ其
銀行發行紙幣ノ引替方ノミナ爲ス可シ

但シ其銀行ノ本店ニ於テモ便宜ノタメ紙幣正金ノ
引替ヲナスコアルヘシト雖モ總テ引替店ヲ別段ニ
設ケタル銀行ハ準備正金ハ悉ク別店ニ積置ク等ナ
レハ正金引換ノ本務ハ此別店ノ取扱ヒタル可シ

第二節 引換店ニ於テハ左ニ掲載セサル地ニ於テ創立
スル銀行ノ發行紙幣ヲモ其銀行トノ約束ニヨリテ正
金引換方ヲ引請ク可シ

第三節 右引換店ヲ設ケタルカ又ハ引換ノ引請ヲ依頼
シタル時ハ其趣旨ヲ詳明ニシテ其銀行ヨリ新聞紙其

他ノ處置ヲ以テ世上ニ公告ス可シ

第四節 紙幣引換ノタメ積置クヘキ準備金ハ別ニ引替
店ヲ設クルモ又ハ他ノ銀行ニ依頼スルモ都テ元高十
分一ノ割合ニ紙幣高三タルヘシ

第五節 其府港ハ東京西京大坂横濱神戸長崎新潟箱館
ト定ム可シ

第十七條 銀行ノ事務實際検査ノタメ紙幣寮ヨ
リ検査役派出ノ手續ヲ明ニス

第一節 紙幣頭ハ大藏卿ノ許可ニ從ヒ各國立銀行營業
ノ實際ヲ詳知スルタメ定例又ハ臨時ノ検査役ヲ派出
スヘシ

第二節 此検査役ハ各銀行ノ本店又ハ別店トモ事務取
扱中ノ期限ナレハ何時ニテモ其用所ニ抵リ諸簿冊計

表其他實地ノ取扱振ヲ詳密ニ檢閲スルヲ得ヘシ

第三節 此検査役ハ先ツ銀行ノ業体ヲ視察シ銀行役員
ノ處務能ク此條例ニ遵ヒ成規ニ違ハサルヤ否ヲ監督
シ其檢閲ノ實況ト考按ノ次第トヲ書面ニ認メ詳明ニ
紙幣頭ニ報告ス可シ

第四節 銀行ハ此検査役ノ外何レノ職務何レノ官爵ア
ル者ト雖モ其爲メニ威服セラレ實務ノ検査ヲ受ルニ
及ハス尤モ國法ニ於テ地方官廳ヨリ命シタル検査ハ
此例ニアラス

第十八條 銀行ニテ紙幣ノ引換ヲ拒ミシ時ノ處
置特例監督役跡引請人等ノ取扱方公
債證書ヲ没入シ官ヨリ其紙幣引換ヲ
ナス等ノ手續ヲ明ニス

第一節 國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ例刻中其銀行
 別ニ引換店ヲ設クニ持參シテ正金引換ヲ望ム時銀行
 ル銀行ハ其引換店ニ持參シテ拒ミ又ハ之ヲ怠リ其引換ヲナサ
 又ハ引換店ニテ之ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リ其引換ヲナサ
 、ルカ又ハ預リ金ヲ返却セサルコアレハ直ニ地方官
 廳ニ訴ヘ掛合方ヲ乞フ可シ

第二節 然リト雖モ其銀行又ハ引換店ニ事故アリテ其
 狀實ヲ書面ニ認メ頭取ノ調印ニテ持參人ニ渡ス時ハ
 紙幣持主ハ唯其書面ヲ地方官廳ニ差出スノミニテ別
 ニ掛合方ヲ乞ハサルヘシ

第三節 地方官廳ハ右引換方ヲ拒ミ又ハ預リ金ヲ返却
 セサル等ノ訴ヘアルカ又ハ其事故アリテ頭取ヨリ差
 出シタル書面ヲ受取レハ直ニ其由ヲ紙幣頭ニ報知シ
 其書面ハ寫ヲ留置本紙ヲ回達ス可シ

第四節 紙幣頭ハ此報告ヲ得レハ速ニ検査役ヲ派出シ
 テ其事實ヲ推問セシメ愈々其罪ヲラハ都テ其銀行ノ
 營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁ス可シ尤モ其銀行
 ニ屬スル爲替又ハ貸附等ノ返金ヲ受取り及預リ金ヲ
 渡スコトハ苦シカラス

第五節 右營業ヲ差止メタル銀行ニ於テハ手形證券類
 又ハ引當物地所等ヲ他人ニ讓リ渡ス可ラス他人ヨリ
 預リ金其他ノ物件ヲ預ル可ラス若シ此條例ニ背キ或
 ハ讓渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引請ヲナスコトアルトモ
 糾正ノ上之ヲ元ニ復セシム可シ

第六節 紙幣頭ハ尙大藏卿ニ稟議シ特例ノ監督役ヲ命
 シ右銀行ノ實際ヲ檢シ諸般ノ手續ヲ推窮シテ其事實
 ヲ詳明ニ報知セシム可シ

第七節 右ノ精確ナル報告ヲ得テ紙幣頭ハ其銀行ノ罪
ヲ判定シ其銀行ヨリ預リタル公債證書ヲ没入スル旨
ヲ申渡シ報告ヲ得タル日ヨリ其公債證書ヲ取上ク可
シ

第八節 而シテ紙幣頭ハ大藏卿ノ差圖ニ從ヒ凡其銀行
ノ紙幣ヲ所持スル者ニ引換ノタメ都テ之ヲ大藏省ニ
出シテ正金ヲ望ム可キ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ
之ヲ引換遣ハス可シ

第九節 右引換ノ紙幣ハ都テ此條例ノ手續ニ從テ之ヲ
燒捨テ新聞紙ヲ以テ其次第ヲ世上ニ公告ス可シ

第十節 紙幣頭ハ銀行ヨリ没入スル公債證書ヲ公賣又
ハ私賣トモ思量セハ正金又ハ其銀行紙幣ヲ以テ之ヲ
世人ニ賣渡スヘシ

第十一節 若シ大藏卿ノ考按ニヨリテ右公債證書ヲ燒
捨テ政府ノ公債ヲ減却セント欲セハ紙幣頭ハ其命ニ
從ヒ之ヲ燒捨テ新聞紙ニテ其次第ヲ世上ニ公告ス可
シ

第十二節 紙幣頭ハ又別ニ右銀行ノ跡引請人ヲ命シ其
銀行ノ諸帳面及各種ノ引當物等ヲ取押ヘ諸貸附金立
替金其他銀行ノ所有物ヲ一切取調タル上ニテ地方官
廳ニ謀リテ滞リ貸金類ヲ處置シ時宜ニヨリテハ銀行
所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ此銀行ノ諸借財又ハ
預リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ割
返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及其所有物ヲ限リテ
相當ノ分散ヲサシム可シ故ニ銀行ノ株主等ハ縱令
其銀行ニ何様ノ損失アルトモ其株高ヲ損失スル外ハ

別ニ其分散ノ賦當ハ受ケサル可シ

第十三節 右借債又ハ預リ金引負金ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ニテ三ヶ月間世上ニ公告シ此銀行ヲ相手トシテ貸借ノ控訴アル者ハ右時限中訴出シメ其次第ト証書類トヲ檢接シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

第十四節 若シ又此銀行ニ尙陳白スルヲアリテ其罪ニ伏セサル時ハ紙幣頭ハ監督役ヲ出セシ日ヨリ三十日内ナレハ此處置ヲ宥恕シ地方官ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ其罪ナキ實証アレバ之ヲ宥恕ス可シ

但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ急ニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ク其處置ニ取掛ルヲ見合セシム可シ

第十五節 右紙幣引換滯ニ付持叅人出願ノ入費及ヒ諸

檢査糺問ノ入費跡引請人ノ入費トモ都テ相當ノ處置ヲ以テ紙幣頭之ヲ取究メ銀行ヨリ之ヲ辨セシム可シ

第十九條 銀行鎖店ノ手續及其紙幣引換方ノ事

ナ明ニス

第一節 國立銀行ハ三分二以上ノ株主ノ説ニ從テ平穩

ニ之ヲ分散シ之ヲ鎖店スルヲ得ヘシ

第二節 右分散又ハ鎖店セントスルニハ其取締役ノ決

議ニ任セ其銀行ノ頭取支配人ヨリ銀行ノ名印ヲ以テ其趣ヲ紙幣頭ニ報告シ又三ヶ月間東京大坂ノ新聞紙其他ノ手續ニテ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ清算ヲ公ニ世人ニ告知シ且其事ヲ促ス可シ

第三節 右公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル紙幣ヲ以テ出納寮ニ預ケタル公債證書ノ内ヲ取戻スコトヲ得ヘシ尤モ其公告ノ日ヨリ半ケ年ヲ過キ簿冊上ニ於テ尙世上ニ殘在スル紙幣アレハ其高丈ヲ正金ニテ出納頭ニ差出シ公債證書ノ預高ヲ全ク取戻スコトヲ得可シ

第四節 然ル上ハ其銀行發行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニテ之ヲ引換銀行ノ株主等ハ聊モ其責ニ任セサルヘシ

第五節 出納頭ハ其鎖店シタル銀行ノ殘リ紙幣引換ノタメ銀行ヨリ正金ヲ請取ラハ其趣ヲ詳記シタル受取書二通ヲ作り一通宛紙幣寮ト其銀行ヘ渡ス可シ

第六節 紙幣頭ハ此受取書ヲ得シハ大藏卿ノ許可ヲ乞

テ直ニ其殘在紙幣ノ引換方ヲ新聞紙其他ノ手續ニテ世上ニ公告シ相當ノ期限ヲ以テ之ヲ正金ニ引換遣ハス可シ

第七節 右ノ手續ニテ引換タル紙幣ハ此條例ノ定規ニ從テ之ヲ燒捨テ其次第ヲ世上ニ公告ス可シ

第八節 右ニ屬スル諸計算其外トモ出納頭紙幣頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置ク可シ

第二十條 別段ノ銀行モ此條例ニ從テ轉業シ得ルノ手續ヲ明ニス

第一節 特例ヲ以テ會社ヲ結ヒタル銀行又ハ爲換銀行ノ類ハ此條例ノ趣旨ニ遵テ國立銀行ノ列ニ加ハルヲ得可シ然ル時ハ此條例ニ於テ定メタル創立證書定款等ハ從前ノ取扱人等之ヲ處置シ何銀行又ハ何爲替銀

行ヨリ轉業シタル趣ヲ記載シ諸般ノ手續ヲナス可シ

第二節 社號並元金ノ株主ハ從前ノ儘之ヲ用テ苦シカ

ラス尤此條例ノ定規ニ照準シ取締役其外ノ役員ヲ撰
任スル迄ハ前ノ取扱人等之ヲ擔當スヘシ

但シ株高並元金高其外トモ都テ此條例ノ定規ニ從
フ可シ

第三節 紙幣頭ヨリ轉業ヲ許シ開業免狀ヲ與フレハ從

前銀行又ハ爲替銀行ノ節所有スル特典殊例ハ全ク消
却シ都テ此條例ニ從テ新ニ創立シタル國立銀行ト異
ナルトナカル可シ

第二十一條 此條例ニテ發行スヘキ紙幣ノ目算

ヲ明ニス

第一節 此條例ニ從テ創立スヘキ國立銀行ヨリ發行ス

ル紙幣ノ總高ハ概テ一億圓ヲ以テ定限ノ目的トスヘ
シ

第二十二條 此條例ノ外他ニ金券又ハ紙幣ノ類

ヲ發行スル銀行ヲ禁止スルヲ明
ニス

第一節 此條例ニ從テ國立銀行創立ノ事ヲ制定シタル
後ハ何レノ人何レノ方法ヲ不論他ノ所置ヲ以テ紙幣

金券及通用手形類ヲ行フコトハ都テ之ヲ禁止ス可シ

第二節 故ニ從來官許ニテ金券通用手形ノ類ヲ發行シ

營業スル銀行又ハ商會ト雖モ速ニ其通用ヲ止メ之ヲ
正金ニ引換ルノ處置ヲナサシム可シ

第三節 爲替兩替預リ金貸附等都テ銀行ニ類スル業ヲ

營ム者ハ向後紙幣頭ノ承認ヲ得サレハ其營業ヲ爲ス

可ラス故ニ從來其業ヲ事トスル商會又ハ銀行等ハ其
地方官廳ヲ經テ在來營業ノ次第ヲ悉ク紙幣寮へ申牒
シ其指令ニ從テ報告書ヲ差出ス可シ
但シ向後創立ノ分ハ勿論其前ニ紙幣頭ノ承認ヲ受
テ營業ス可シ

第二十三條

銀行ノ訴訟ハ一般ノ處置ト異ナラ
サルヲ明ニス

第一節

國立銀行ニテ他ノ商會又ハ銀行其外ノ取引先
ヲ相手トシテ控訴スルカ又ハ他人ヨリ此銀行ヲ相手
トシテ訴訟ノ事アルトモ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其
地方官廳ニ於テ之ヲ裁判スヘシ

第二節

國立銀行ヨリ紙幣頭へ差出ス宥免願ノ類ハ其
地方官廳ノ手ヲ經テ之ヲ出ス可シ

第二十四條

銀行簿記計表報告書等書例ノヲ明ニス

第一節

國立銀行ノ諸簿冊計表其他ノ諸計算書類ハ極
メテ精確ニ記載シ且簡明ヲ要ス可シ尤モ諸約定書証
書手形類其他ノ要書ハ堅ク之ヲ庫中ニ管守スヘシ

第二節

銀行創立及營業中ノ諸證書定款又ハ報告書計
表ノ類ハ銀行成規ノ書例ニ從フ可シ

第二十五條

銀行ノ役員奉務上ノ禁令ヲ明ニス
第一節 凡ソ國立銀行ノ頭取取締役支配人其外ノ役員
ハ私ニ銀行ノ有金ヲ費糜シ又ハ之ヲ掠取リ又ハ私ノ
費用ニ供フ可ラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ紙
幣ヲ發行シ預リ証書ヲ出シ爲換手形約定手形諸約定
諸貸附等ヲナスヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書

其外ノ要書中ニ詐偽ヲ記載ス可ラス又私曲ヲ謀リテ
 其銀行ノ株主又ハ官吏商會其他ノ者ヲ欺キ及銀行實
 際ノ検査役ヲ欺キ又ハ欺カント謀ルヘカラス若此數
 件ヲ犯ス者アラハ皆國法ニ從テ之ヲ罪科ニ處ス可シ
 第二節 銀行ノ役員ハ其銀行ヨリ發行スル紙幣又ハ手
 形証書ノ類ハ之ヲ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ
 穿テ糊附ニスル等ノヲナス可ラス若シ犯ス者アレ
 ハ地方官廳ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ罰金ヲ銀
 行ヘ拂ハシム可シ

第三節 若シ他人タリトモ銀行ノ役人ヲ誘ヒ右等ノ惡
 事ヲナサシメ又ハ其惡事ヲ助クル者アレハ何等ノ人
 ナ不論同等ノ罪科ニ處スヘシ

第四節 銀行ノ役員ニ連ナル者ハ假令其私宅ニ於テモ

私ノ商業ヲ爲ス可ラス若シ銀行ノ名ヲ假リテ自己ノ
 利益ヲ謀ルコトアレハ假令如何ナル處置タリトモ之ヲ
 不正ノ所爲トナシテ相當ノ罪科ニ處スヘシ

但シ銀行ノ株主ニテモ役員ニ連ラサレハ別ニ自己
 ノ商業職業ヲナスコト勝手タルヘシ

第二十六條 銀行頭取取締役處務上ノ禁令ヲ明
 ニス

第一節 國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ自ラ此條例ニ
 悖リ又ハ銀行ノ役員又ハ株主等ヲシテ猥リニ之ニ戻
 ラシム可ラス若シ或ハ悖戻ノコトアレハ此條例ニ於テ
 其銀行ヘ與ヘタル條理特權ハ悉ク之ヲ取上ク可シ
 但其悖戻ノ罪ハ其銀行ヲ鎖店セシムルノ前紙幣頭
 ヨリ通達シテ其地方官廳ニ於テ之ヲ糾正スヘシ

第二節 此條例ノ悖戻モシ頭取取締役ニアリテ其爲ニ株主等ニ損失ヲ受ケシムルコトアレハ其損失ハ頭取取締役之ヲ任ス可シ

第二十七條 紙幣贋造ノ禁令ヲ明ニス

第一節 此條例ニ遵テ國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ贋造ス可ラス贋造セシム可ラス贋造ヲ助ケ又ハ之ヲ勸ム可ラス贋造ト知リテ之ヲ通用セシム可ラス

第二節 右紙幣ノ文字畫圖ヲ變換スヘカラス變換セシム可ラス變換スルコトヲ助ク可ラス變換セシ紙幣ト知リテ之ヲ通用セシム可ラス

第三節 國立銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ヲ私ニ彫刻スヘカラス私ニ彫刻ヲ命スヘカラス其摺立ニ用ユヘキ板版繪ノ具及似寄ノ紙品ヲ所持ス可ラス

第四節 若シ右ノ數件ヲ犯ス者アレハ何等ノ人ヲ論セス國法ニ從テ之ヲ嚴科ニ處ス可シ

第二十八條 條例更正ノコトヲ明ニス

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ何時ニテモ此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改革シ又ハ之ヲ廢止スルコトアル可シ

第二節 右增補改革廢止等アレハ紙幣頭ハ速ニ其由ヲ世上ニ公告ス可シ

右之通相定候事

明治五年八月五日

太政官

(第四百八十一條) 明治六年七月二日第二百三十六號御達

諸省使

省使定額金請拂方ニ付テハ各自便宜ヲ以テ商會又ハ有

名ノ豪商等へ申付出納ノ現務爲取扱候處此度大藏省ニ於テ官金取扱方ヲ第一國立銀行へ命シ別紙ノ通約定相設候ニ付向後省使トモ右約定書ニ倣ヒ約束ノ草案ヲ設爲シ從前取扱方申付候者又ハ將來可申付モノトモ名前取調都テ大藏省へ照會ノ上同省承諾ヲ以テ結約イタシ出納事務精確相成候様可致事

大藏省ノ金銀出納事務ヲ第一國立銀行ニ命シ其取扱ヒヲナサシムルニ付右從事ノ手續キ及ヒ出納ノ諸規則トモ大藏省官員ト右銀行頭取取締役等ト協議決定スル條々左ノ如シ

第一條 此銀行ハ東京ヲ根據トナシ京都大坂横濱神戸ニテ大藏省ニ收納スヘキ金銀或ハ拂渡スヘキ金銀ノ取扱ヒヲ命スルニ付テハ其事務取扱ヒノ際ニ於テハ

大藏省官員同様ノ心得ヲ以テ誠實ニ之レヲ勤ムヘシ
第二條 大藏省へ上納スル金銀ハ總テ此銀行本店又ハ出張所ニテ請取眞贋見改ノ上納主へハ銀行ノ預リ手形ヲ渡シ納主ハ右預リ手形ニ納證書ヲ添出納察へ持參シ本納ノ手續ヲナスヘシ出納察ニ於テハ更ニ銀行ノ金銀預リ帳へ記載シ證印ノ上最前ノ手形ハ銀行へ返達シテ出納察ヨリノ預リ手形ト引換ヘシム可シ

第三條 此銀行ニ於テ取扱フ金銀ハ新貨又ハ在來通用ノ貨楮幣トモ紙包スヘキ分ハ其雛形並一種ノ銀行封印ヲ刻シ當省預ケ金ニ限リ此印ヲ用ル爲メ印面上隱微ニ標信ヲ付シ右印影等兼テ大藏省へ差出シ置キ且封緘上ニ記載スル年月日改人包人ノ名前印形トモ各其位置ヲ定メ豫メ贋封ノ患ヲ防シテ注意シ必ス異

様ノ封緘ヲ嚴禁ス可シ

但各貨幣ニ受渡ノ上ニ於テ敢テ此封緘ノ儘流通ヲ許スニ非ス尤請取人ノ意見ニ依リ此封緘ヲ信用スルキハ格別タルヘク若シ後日此封緘ニ付テノ爭論或ハ種々ノ苦情之レアルヒ又ハ損失アルヒ大藏省ニ於テ之レヲ處分スルノ理ナク銀行ニ於テモ其損失ハ辨償セサル可シ

第四條 改濟金銀ノ内若シ贋金銀或ハ不足金等アリテ追テ取調ノ上全ク銀行取扱ヒ向疎畧錯誤ニ出ルコト明瞭ナル時ハ其贋或ハ不足丈ノ一倍ヲ合シテ償ハシム可シ

但萬一作為シテ釀出スル件アル時ハ精細ニ其由ヲ取糺シ處斷ノ上關涉ノ者ハ至當ノ法ニ處シ其損失

スル金銀ハ第十三條ノ通ナル可シ

第五條 大藏省ヨリ諸方ヘ渡金ハ兼テ出納寮ニ設ケアル切符地紙ヘ拂金ノ員數并ニ其渡シ先ノ名前トモ記載シ之レヲ請取主ヘ相渡シ銀行ト請取主ト直引合ニテ通用貨幣ヲ引換ヘシム可シ尤受拂計算ノ爲メ毎月兩度宛或ハ出納寮ノ都合ニ因テハ其時々元帳ト切符ト照查ノ上差引勘定ヲナシ右切符ハ出納寮ヘ返上シ殘金銀ハ何時ニテモ上納相成ヘキ様致スヘシ

但銀行ニテハ毎日預リ金ノ種類分ケ諸所出張銀行ノ預リ金高内譯ヲモ取調日々計表ヲ作り之レヲ出納頭ヘ差出スヘシ尤横濱ハ毎三日大坂ハ毎五日ニ計表可差出筈ニ付東京本店ニ於テハ此日間丈ハ曩ニ差出タル員數ヲ以テ調査ス可シ

第六條 此切符ヲ以テ再ヒ他へ運用スルコトハ嚴禁タル可シ

第七條 大藏省ノ都合ニ因リ京都大坂橫濱神戸ニ於テ他方へ拂渡ス可キ金銀ハ便宜其地ニアル銀行ニ於テ前條ノ手續ニ從ヒ渡シ方ヲナサシムヘクニ付切符持參ノモノ、其地ニテ差支ナク渡シ方ヲ取扱フヘシ尤其地銀行預リ金ノ都合ハ毎日各出店預リ高ノ計表ヲ以テ兼テ之ヲ詳知シ出納寮ヨリ成丈ケ其高ヲ越エサル様心ヲ用フ可シ

第八條 預リ金現額ノ種類ニ拘ラス出納寮ノ都合ニ因リテ洋銀或ハ各貨幣ノ交換ヲ命スルコトアラハ此銀行ニ於テ新貨幣或ハ圓札官省札ヲ除ク外ハ時ノ相場ヲ以テ取引ヲナスヘシ自然預リ金ノ内舊藩札アル時

ハ其時々出納頭ノ指圖ニ從ヒ東京ハ紙幣本寮京都大坂神戸ハ大坂出張紙幣寮ニ申出圓札ト引換ヲ乞フ可シ

第九條 此銀行ニ於テハ慥成名代ヲ撰ヒ兼テ其者ノ印鑑ヲ差出シ置ク可シ然ル上ハ各地方ニ於テモ其者ノ印鑑ヲ目當ニ請渡ヲナシ萬一其者預リ金ヲ引負スルカ又ハ其他ノ不都合アレハ其責ハ本店へ歸シ不足金等ハ勿論本店ヨリ之ヲ償却ス可シ

第十條 此銀行ニ於テ盜難又ハ水火難等之レアリ預ケ金銀ヲ紛失スルコトアリトモ凡テ本店銀行ノ請負タル可シ

但非常ノ變災ハ此限ニアラス

第十一條 此銀行ニ於テハ預リ金ノ質物トシテ公債證

書此公債證書ノ割合ハ一般融通スル所ノ時相場ヲ以テ成算ス可シ尤以往各公債證書ノ價自然高低スルニ至リテハ其時々大藏省并銀行ノ都合ニ依リ双方承諾ノ上右質物ノ高チ増減スルコトアルヘシ又ハ確當ナル預ケ金貸出金ノ證文又ハ家作地面地券ノ類至正ノ實價ヲ積算シ其確實ヲ保證スル爲メ兼テ之ヲ差入置ク可シ尤右高ハ預ケ金ノ半高チ以テ目途トナシ時ニ於テ之ヲ増減交換スルコトアル可シ

第十二條 此銀行ノ預金高ハ前條質物ノ都合ニヨリ常ニ貳百萬圓或ハ百五十萬圓ヲ以テ極度トナス可シ若此決定ノ金額ニ超越スル時ハ大藏省金庫ヘ繰入又ハ他ノ銀行ヘ預ケ方ヲナス歟或ハ別ニ確實ノ保證ヲ差出シ此銀行ニ預ルコトアル可シ

第十三條 此銀行ノ本店ハ申ニ及ハス各地出張所等ニテ万一公金ヲ引負スルコトアル時ハ兼テ差入レ置タル

質物ハ勿論速ニ償辦ノ手續ヲナシ其引負ニ於テ生スル損分ハ便宜ノ處分ヲナシテ之ヲ取立且ツ其引負ノ次第取糺ノ上國法ニ從ヒ至當ノ罰ニ處ス可シ

第十四條 東京ハ素ヨリ各地共ニ每週一度出納察官員此銀行ニ出張シテ諸帳面ノ記載方出納ノ順序及ヒ金庫ノ有高チ取調各種ノ貨幣内譯トモ検査スヘシ尤東京銀行於テハ各種ノ拂金ヲナシ省中持出シ金等ノ都合ニ因リ暫時庫中ヨリ假ニ差出シ置ク所ノ金高チ計リ預ケ金總額ノ内拾萬圓マテハ除之計算相立可シ但本文ノ外臨時出張スヘクニ付諸帳面其外錯亂之レナキ様順序相立置可シ

第十五條 諸上納金ノ内未タ本納ノ手續ニ至ラズ假預リノ分ハ別簿冊ヲ設ケ夫々順序ヲ立テ金種并納先等

詳明ニ記載シ別段ニ預リ置ヘシ此金ト雖モ勿論銀行ニ於テ自己ニ運用ス可カラサルハ申迄モ之ナク候得共万一分明ノ所置致シ候節ハ其金高一倍ノ違約料ヲ差出ス可シ

但東京并各地トモ出納寮ハ勿論造幣租稅土木紙幣諸寮ノ官員臨時此銀行へ出張シ右預ケ金ノ有高及簿冊ノ記載方ヲ檢査ス可シ

第十六條 此銀行ニ於テ金銀受拂ノ取扱ヒ並預リ金ノ請負等ヲナスニ依リ保嶮並手數料トシテ預ケ金ノ内高百萬圓迄ハ百分ノ三右以上ハ百分ノ二ト定メ每六月十二月ト兩度ニ之ヲ拂ヒ渡ス可シ
但各地有高ノ内ヲ爲換スルニ一口ノ金高百萬圓未滿ナレハ手數料ナク銀行ニテ便宜之ヲ交換スヘシ尤

百圓以上ノ高ナレハ其時ノ相場ニヨリテ爲換打歩ヲ遣スヘシ若又全ク現金ニテ運輸ノ節ハ相當ノ運輸賃ヲ渡ス可シ

附リ各種爲換打歩ノ割合ハ相當ノ見込ヲ以テ時々銀行ヨリ出納寮へ申立置ク可シ

右之條々ヲ約定スルニ付此書面二通ヲ作り保証ノ爲メ各其姓名ヲ自記シ且之ニ調印シ本紙一通ハ大藏省へ納メ他ノ一通ハ銀行へ交付スル者也

大藏卿出納檢査兩頭並(署)銀行頭取等連署(之)

明治六年六月
第四百八十二條 明治六年七月二日第二百三十七號御達

府 縣

府縣貢納金爲替方並ニ縣費請拂出納等ニ付テハ各自便宜ヲ以テ商會又ハ有名ノ豪商等へ申付出納ノ現務爲取

扱候處此度大藏省ニ於テ官金出納取扱方ヲ第一國立銀行ヘ命シ別紙ノ通約定相設候ニ付向後府縣ニ於テモ右約定ノ成則ニ從ヒ草案ヲ設爲シ爲替出納等爲取扱候モノ名前取調都テ大藏省ヘ伺出其指圖ニ任セ約束等相定出納筋嚴重取締可致事別紙第四百八十一條ト同文ニ付畧之

○古金銀納入証券渡方規則

(第四百八十三條) 明治四年辛未十二月十日御布告

今般造幣寮ニ於テ古金銀預リ証券ヲ發行シ之ヲ流融便用セシメ追テ定期ヲ以テ新貨ニ交換セシムヘキニ付來ル十二月十五日ヨリ古金銀所持ノ者ハ望次第造幣寮ヘ申立左ノ規則ニ準シ地金ヲ納メ証券受取候様可致事止
達第四百八十六條參看

古金銀納入証券渡方規則

第一則 古金銀又ハ混合ノ地金塊ヲ造幣寮ヘ納メ造幣

頭ノ預リ証券ヲ得ント欲スル者ハ地金ヲ持參シテ其

趣ヲ出納掛長官ヘ申立ツヘシ

古金銀又ハ地金塊ノ高ハ成貨ニシテ凡千圓以上タラ

ハ之ヲ受取ルヘシ改正布告第四百八十四條參看

但舊貨幣ノ類タラハ既ニ公布セル通貨ニ從ヒ混合

ノ地金塊タラハ其純分ノ凡積ヲ以テ假ニ其高ヲ見

積ルヘシ

古金銀又ハ地金塊ノ受取方ハ造幣規則第一條ノ日時

通りタルヘシ尤其日ノ受取多寡ハ造幣寮ニ於テ工事

ノ都合ニヨリテ之ヲ取極ムヘシ

第二則 右古金銀又ハ地金塊ハ納入立會ニテ其品類及

量目ヲ改メ出納掛長官之ヲ預リ假受取書ヲ納人ニ渡シ置試験鑄解所ニ於テ試験分析ヲ爲シ其純分ヲ詳明ニシテ後預リ証券ヲ渡スヘキ手續ヲナスヘシ
試験鑄解並分析ノ時間ハ遅クモ九日ヲ以テ限ルヘシ
尤造幣頭承認ノ分析表ヲ添テ其納人ヘ渡スヘシ
鑄解ノ工事ニ於テ若シ量目鑄減スレハ其減分ハ納人ノ受持タルヘシ

第三則 試験鑄解並分析ノ上其地金ノ品量詳明ナレハ出納掛長官ハ其品量ニ應シテ全量ノ中ヨリ定則ノ試験分析料精製料鑄造料及証券發行ノ費用ヲ引去リ其殘量ヲ以テ新貨ノ高ヲ算出シ預リ証券渡方ノ令狀ヲ認メ之ヲ納人ニ渡シ前ニ渡セシ假受取書ヲ返收スヘシ

若シ地金納人右ノ試験分析ヲ充分ナラストシテ預リ証券ヲ受取ル事ヲ望マサレハ其地金ハ鑄解ノ儘之ヲ返却シ試験分析料ノミヲ納メシムヘシ
混合地金ノ銀分ハ十六ヲ以テ金一ニ替ユヘシ
八十五
條參看
試驗分析料ハ金銀共千ニ付一精製料ハ現今分析所ニ割鑄造料ハ百ニ付一証券發行ノ費用ハ千ニ付五ナル合シ
地金納人ハ出納掛長官ヨリ渡セシ令狀ヲ以テ証券掛
シ
〜申出令狀ト引換ニ其高丈ケノ預リ証券ヲ受取ルヘシ
此証券掛ハ大坂ニ在ル爲換坐三井組並同所ノ爲換方
ニ於テ取扱ハシムヘシ

改正達
第四百

第五則 此預リ証券ノ金高名稱ハ金五圓金拾圓金二拾圓金五拾圓ノ四種タルヘシ

第六則 此預リ証券ハ所持人ノ都合ニヨリ賣買勝手タルニ付引換期限前ニテモ差支ナク之ヲ通用スヘシ

但シ取引ノ節ハ預リ証券ノ番號ト其取引先ノ姓名トヲ互ニ心覺ノ爲ニ書留メ置クヘシ

第七則 此預リ証券ハ發行ノ日ヨリ二十四ヶ月ヲ以テ通用ノ定限トシテ都テ新貨ヲ以テ之ヲ引替ユヘシ尤

發行ノ日ヨリ六ヶ月以後ヲラハ持參次第何時ニテモ左ノ場所ニ於テ之ヲ新貨ニ交換スヘシ
看 改正布告第四百八十四條參

東京爲換坐三井組
大坂爲換方

但シ其節ノ都合ニヨリ橫濱神戸ニ在ル爲換坐及西京爲替方ニテモ之ヲ引替ユヘシ

第八則 此預リ証券ハ引換ノ期限即チ發行ノ日ヨリ六ヶ月以後ハ大藏省へ可差出諸租稅上納金等ニモ差支ナク之ヲ用ユル事ヲ得ヘシ

但海關ノ諸稅ハ之ヲ受取ラス

第九則 此預リ証券ヲ贋造スル者贋造セント謀ル者又ハ贋造ヲ助シル者又ハ贋造ナルヲ知リテ通用セシムル者ハ何等ノ人ヲ論セス國法ニ從フテ之ヲ嚴科ニ處スヘシ
增補布告第四百八十四條參看

右之通規則相定候事

辛未十一月

大藏省

三二六
第四百八十四條) 明治五年壬申十月二日第二百九十七號

御布告

是迄造幣寮ニ於テ發行致候古金銀預リ證券之儀ハ古金銀混合地金而已ニ限リ引換來候處今般右證券渡方規則中左之通改正増補致シ候條以來精惡トモ貳分判所持之者ハ望次第造幣寮へ申立規則ニ準シ地金ヲ納メ證券請取候様可致事

古金銀納入證券渡方規則

第一則中掲載古金銀又ハ地金塊ノ高ハ成貨ニシテ凡ソ千圓以上ナラハ之ヲ受取ルヘシ

改正二千五百圓以上ヲ受取ルヘシ

第七則中掲載預リ證券ハ發行ノ日ヨリ六ヶ月以後タラハ持參次第新貨ニ交換スヘシ

改正三ヶ月以後タラハ新貨ニ交換スヘシ

増補二則

第一則 精二分判五千兩以上ノ高ナラハ證券引換ノ爲メ之ヲ受取ヘシ

第二則 惡二分判一万兩數貳分判ノ以上ノ高ナラハ證券引換ノ爲メ之ヲ受取ヘシ

但兩則共受取方手續キ精製料等都テ古金銀混合地金塊ノ通リタルヘシ

(第四百八十五條) 明治五年壬申十一月十九日第三百五十五號御達

造幣寮發行證券規則中混合地金ノ銀分ハ十六ナシテ金一ニ替ユヘシト有之候處今般御詮議ノ筋有之左ノ通更正致シ候條此段爲心得相達候事

古金銀納入證券渡方規則

第三則中掲載混合地金ノ銀分ハ十六ヲ以テ金一ニ替
ヘシノ一條ヲ刪去更ニ如左改正

混合地金中ノ銀分ハ一圓銀ノ割合ヲ以テ算計シ造幣
寮ノ都合ニ依リ金貨或ハ銀貨ヲ以テ渡スヘシ

(第四百八十六條) 明治六年五月二十八日第百七十六號御

達

造幣寮ニ於テ古金銀預リ證券ヲ發行候段辛未十一月及
布告候處廢止候條此段爲心得相達候事

(第四百八十七條) 明治七年九月五日第九十三號御布告

明治元年閏四月中舊貨幣價格比較ノ儀布告候處今般更
ニ造幣寮ニ於テ精細分析ノ上別冊ノ通改定シ來明治八
年十二月迄新貨ト交換候條所持ノモノハ各地方廳へ引
換方可申出右期限中海關稅ヲ除クノ外租稅其他一般ノ

公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今令廢止候
條此旨布告候事 別冊

○地券渡方規則

(第四百八十八條) 明治五年壬申正月二十四日大藏省第二

十五號達

今般地所永代賣買被差許候ニ付今後賣買並讓渡ノ分地
券渡方等別紙規則ノ通可相心得事

別紙 地所賣買讓渡ニ付地券渡方規則

第一 地所賣買讓渡ノ節地券相渡候ニ付テハ於府縣元
帳ヲ製シ地券申受ノ儀願出候節ハ別紙雛形ノ通地券
本紙并扣共二枚ヲ書シ押切印ノ上本紙ハ地主へ與へ
扣ハ右元帳へ綴込置可申事 改正達第四百
九十一條參看

第二 右元帳ヲ以地券ノ大帳ト定メ以後ノ分綴込置一箇年分取纏寫一通リ大藏省へ差出置可申事改正達第四百九十一條

第三 地券申受ノ儀ハ別紙願面書式之通り相認爲願出可申事

第四 右願出有之節ハ雙方情實篤ト相糺相違無之候ハ、地券相渡可申事

第五 一筆ノ地所ヲ裂キ賣買致度旨願出候分ハ實地ニ於テ總步數ヲ改檢地帳へ照合シ引分方偏頗無之様篤ト檢査ノ上願ノ趣聞届地券相渡可申事

第六 右地券ハ地所持主タル確證ニ付大切ニ可致所持旨兼テ相論置可申候万一水火盜難ニテ地券ヲ失ヒ候節ハ二人以上ノ證人ヲ立村役人連印ヲ以テ書替ノ儀

爲願出可申事

但盜難等ニテ失ヒ候分後日相知レ候ハ、早速可差出旨請書取置可申事

第七 初度地券相渡候以後賣買讓渡シ并代替リ其外質地流込等ニテ持主相替リ候節ハ地券ノ裏へ雛形ノ通相認地券書替ノ儀爲願出可申事

第八 右書替願出候節ハ其情實ヲ吟味シテ後新地券ヲ渡シ舊券ヲ取消スヘシ尤大帳へモ地主相替リ候趣并地代金増減ノ有無年月日共詳記シ置一箇年分取纏メ大藏省へ可届出事

第九 山林原野其他ノ地所共賣買讓渡ニ付地券相渡候分總テ同様可相心得事

第十 願ニヨリ荒蕪ノ地所拂下ケ候節ハ同様地券可相

渡事

第十一 新規書替共地券申受候節證印稅トシテ左ノ通
リ上納可爲致事

證印稅

地券ニ記セシ

金高 百圓以下 千分ノ五 即十圓ニ付五錢

同

同 二百圓以上 五十錢

同

同 二百圓以上 一圓

同

同 五百圓以上 一圓二十五錢

同

同 二千圓以上 一圓五十錢

同

同 二千圓以上 二圓五十錢

同

同 五千圓以上 三圓七拾五錢

第十二 爾後地券ヲ不申請密賣致シ候者ハ其地所并代
金共取揚可申事

但致連印候村役人ハ地代金ノ三分通罰金可申付事

第十三 從來ノ持地ハ追テ地券渡シ方ノ儀可相達事

百八十九
條參看

第十四 東京府下ヲ始沽券稅法御達ノ土地ハ此規則ノ

例ニアラザル事 增補達第四百九十二條參看

右之通相定候事

奉願候畑地賣買之事

某國何郡何村ノ内

何字何番

畑田何段何畝何步

此高何石何斗何升何合
此地代金何十何兩也

同郡同村

持主何之誰

同郡同村

買請人何之誰

但是迄ノ質入證文添

右地所今般相對ノ上賣渡且買請可申積相談相整候間賣

買ノ儀御聞濟地券御渡シ被下置度依之村役人與印ヲ以

此段奉願候以上

年號干支月

賣渡人右何之誰印

買請人右何之誰印

前書願之趣双方相糺候處情實相違無御座候依之私共連

印ヲ以此段申上候以上

年號干支月

某國何郡何村組頭

何之誰印

同名主

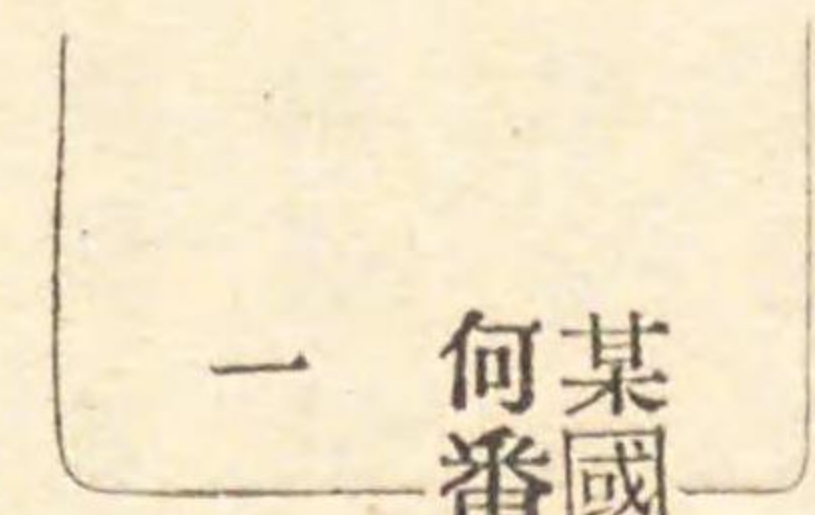
何之誰印

何府縣廳

年號于支月

地券之證

印切押



某國某郡某村之內
何番

田何町何反何畝何步
此高何十何石何斗何升何合
此地代金何百何十何兩也

持主

某郡某村
何之誰

印切押



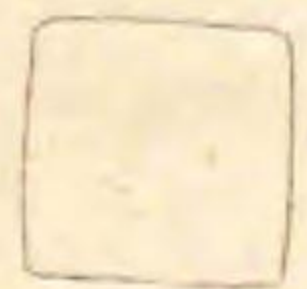
畑何町何反何畝何步
此高何十何石何斗何升何合
此地代金何百何十何兩也

同人

右檢査之上授與之

何府知事
令苗字名

大小屬苗字名



受付

年號干支月

地券之證

其國某郡某村之內

押切印

字何

險阻平地

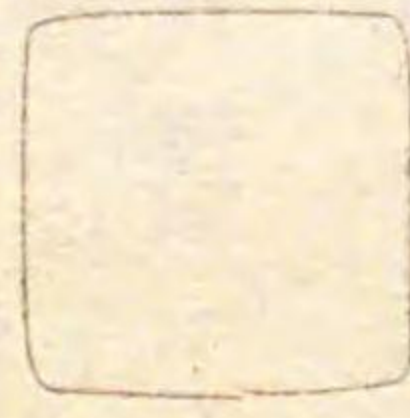
山反別何拾何町何畝步

立木有無
此地代金何拾何兩也

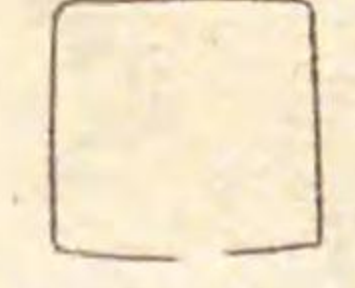
持主 某郡某村之誰

右檢查之上授與之

何縣府知事苗字名



大少屬苗字名



受付

(第四百八十九條) 明治五年壬申七月四日大藏省第八十三號布達

地所賣買規則第十三則ニ從來持地ハ追テ地券渡方ノ儀可相達旨掲載布告ニ及置候處即今己ニ賣買ノ者ハ地券相渡從來所持ノ者ハ不相渡候テハ不都合ニ付管下人民地所所持ノ者ハ最前相達候規則ニ準シ都テ地券相渡候様可致尤其代價ノ儀ハ田畑ノ位付ニ不拘方今適當ノ代價爲申出地券面ハ書載可致候

但本文地券相渡候儀ハ可成丈至急ニ取計總テ當十月中ニ渡濟ニ相成候様可取計若事實無據次第有之延引可相成見込候ハ其旨前以租稅寮へ可申出事

(第四百九十條) 明治五年壬申七月二十五日大藏省第九十

四號達

田畑勝手賣買差許候ニ付郡村地券渡方規則頒布致候處猶詮議ノ次第有之別紙ノ通規則増補致シ候條都テ照準可致候此段相達候事

紙別地所賣買讓渡ニ付地券渡方規則増補

第一 一筆ノ地所ヲ裂キ賣買致シ候儀願ニヨリ差許候ニ付テハ舊地主へ殘置候分并切地ニ致シ候分トモ地所ノ番號同號ニ相成候テハ不都合ニ付新規讓受候ハ更ニ番號相記可申事 更正達第四百九十三條參看

第二 田畑トモ幾筆モ合併致シ券狀一通ニ相記シ候儀人民願ニヨリ可差許右様ノ分ハ一筆限別冊ニ致シ一人別ニ爲差出地券證ハ其人毎ニ總反別相記シ一筆限帳別冊券狀ト割印ヲ押シ地券ノ番號ノニ相記シ地所ノ番號ハ總テ別冊ノ肩書ニ一々相記シ可相渡事

但一筆限リ帳扣一通爲差出於其廳一村限取纏置可
申事

第三 證印税ノ儀拾圓以下ノ分ハ都テ五錢可取立事
右之通増補致シ候事

(第四百九十一條) 明治五年壬申八月二十八日大藏省第百
十五號布達

地所賣買讓渡ニ付地券渡方規則中第一條第二條左ノ通
改正

第一條 地券相渡候節地券ハ最前ノ雛形通りニ製シ地
主ニ相渡地券大帳ハ二ツ折帳ニ仕立半枚ニ二筆宛記
載シ券狀ト割印可致置事

但腹書多分有之分ハ見計タル可キ事

第二條 地券大帳ハ年々収税ノ照準ニ致シ地券渡濟ノ

上一村限地所ノ段別地券金高トモ總合高取調租稅寮
ニ可差出事

但總合高取調方別紙表式ノ通可相心得尤表式ハ追
テ可相達事

右ノ通及更正候條此段相達候也

(第四百九十二條) 明治五年壬申九月四日大藏省第百二十
六號達

當壬申二月地券渡方規則第十四條相達置候處今般十
五條以下ノ條々相達候間前後照考慮置可致事 更正達第十
四條 參看

地券渡方規則

第十五條 從前田畑ノ稱呼ヲ廢止總テ耕地ト可唱事
第十六條 石高ノ稱ヲ廢シ反別相用可申尤諸掛リ等ハ

地券金高ヲ以テ可致割賦事

但從來反別無之場所ハ檢地竿入ニ不及候得共所持
主ヨリ檢査ノ上爲申出儀ト可相心得事

第十七條 右二則ハ追テ税法改定ノ節ニ至リ可相改ニ
付夫迄ハ貢租ニ属シ候書類ハ總テ從前ノ通可相心得
事

第十八條 屋敷地ノ外切歩ノ儀ハ百坪以下ハ難相成事
但是迄一筆限リ右以下ノ坪數ヲ所持有之分ハ此限
ニ非ス

第十九條 地券合筆一紙ヲ以テ渡方相願候モノハ別冊
一筆限リ之代金へ賣買規則第十一則ノ割合ヲ以テ證
印稅取立可申事

第二十條 總テ人民所持ノ地後來御用ノ節ハ地券ニ記

セル代價ヲ以テ御買上可相成事

第二十一條 從前切添切開并高外地へ試作致シ候歟或
ハ除地見捨地等へ家屋取立候歟林敷ノ類開業致シ候
種類其他隱田タリトモ此度限リ一切差許候間有休可
書出旨可申渡事

第二十二條 地券相渡候後ニ於テ隱田等有之候節ハ此
規則第十二條密賣買ノ例ヲ以テ處置可致事

但隱田ハ賣買ノ代金無之候ニ付地所ノミ取上可申
且其地所ハ入札拂取計右代價ノ三分通り村役人ヨ
リ可取立事

第二十三條 從前切畝歩致シ檢地帳名寄帳小拾帳等ニ
突合ザルトモ現地ノ景況ニ隨ヒ總テ地引繪圖可差出
旨說亦可致事

第二十四條 段別等持主申立ヲ以テ檢地帳へ引合セ相違無之分ハ据置ノ積相心得檢地竿入等取計不及候得共地所境界紛雜取調差支候向ハ一筆限リ畝杭ヲ打地引繪圖爲差出落地無之様實地檢査可致事

但餘歩有之地所檢地帳ニ比較増歩相成候分ハ人民申立ノ通据置右ニ相反シ檢地帳ヨリ減歩相成候地所竿入檢査ノ上減歩可致事

第二十五條 従前高内外ニ不拘社寺郷藏ノ類或ハ埋葬地等地主定リ無之分ハ地引繪圖中ニ其譯可記置事

第二十六條 村持ノ小物成場山林ノ類ハ地引圖中色分致シ可申事

第二十七條 堤外附寄洲又ハ流作場等不定地ノ類大繩場ニ相成居持主有之候ハ格別確定ノ持主無之地所

ハ入札拂ニ致シ持主相定メ可申若シ持主ニ難相定分ハ拜借地ノ積可相心得事

第二十八條 従前高内外ニ不拘郷藏敷村圍穀積藏敷ノ類人民ニ關係ノ分ハ地券ヲ定メ一村總持ト可致事

第二十九條 堰料堤敷道敷川床敷等ノ類潰地高内永引ノ分ハ自今無稅地ニ相定メ可申事

第三十條 墓所地ハ従前ノ通無稅地ト可致事

第三十一條 本田畑ト雖モ村民退轉致シ持主無之荒地ハ其段別ヲ點檢致シ入札拂ノ積相心得管内普ク布告可致事

第三十二條 持主有之荒地ハ反別坪數等綿密ニ遂檢査起返ノ手數勘辨ノ上至當ノ年期ヲ定メ代價ヲ記セザル券狀ヲ其持主ニ相渡年期中無稅ト可相定事

但荒地券狀證印稅ハ反別ノ多少ニ拘ラズ一筆ノ地所ヨリ五錢ノ印稅ヲ收入スベシ

第三十三條 持主無之荒地并持主有之荒地共一郡限反別仕譯繪圖面相添可届出事

第三十四條 村持ノ山林郊原其地價難定土地ハ字反別而已記セル券狀へ従前ノ貢額ヲ記シ肩ニ何村公有地ト記シ其村方へ可相渡置事

但池沼ノ種類モ同斷ノ事

第三十五條 兩村以上數村入合ノ山野ハ其村々ヲ組合トシ前同様ノ仕方ヲ以テ何村何村ノ公有地ト認メ券狀可渡置尤其券狀ハ組合村方年番持等適宜ニ可相定事

第三十六條 總テ山林原野ノ類反別難相分ハ先以テ無

反別ニ致シ漸次點檢ノ積可相心得事

第三十七條 總テ右種類ハ地界ヲ券狀ニ記載スヘシ譬へハ東耕地西字何山南某川北某村字何原ト如斯詳カニ記註スヘキ事

第三十八條 従前無稅地ニ住民有之候得共地位下等ニシテ他ヨリ望人ナキヲ以テ地價ノ目的難相立節ハ一反歩則三百歩ニ付十圓以上ノ地價ニ定ムヘキ事

第三十九條 地所引合相濟候ハ、落地無之旨地主一同調印ノ上戸長以下ノ誓文請書可申付事

第四十條 右種類地有稅無稅ノ區界ヲ仕譯村限リ地券臺帳ノ末ニ記載可致事

右ノ通相達候事

十二號布達

當七月第九十四號ヲ以テ及布達候地所賣買讓渡ニ付地
 券渡方規則增補中第一條ハ取消更ニ左ノ通改正
 一 一筆ノ地所ヲ裂キ賣買致シ候儀願ニ依リ差許候ニ付
 テハ舊地主へ殘置候分并裂地ニ致シ候分共地所ノ番
 號ハ在來ノ儘据置幾廉ニ分裂候共何番ノ内誰持地ト
 記シ可申券狀番號ノ儀ハ地所ノ番號ニ不拘券狀渡シ
 ノ順番ニ可致事
 右之通及更正候也

(第四百九十四條) 明治五年壬申十月三十日大藏省第百五
 十九號達

壬申九月第百二十六號地券渡方規則相達置候處更ニ詮
 議ノ廉有之規則中第十五條ヨリ十七條マテハ追テ太政

官ヨリ御達可相成筈ニ付右三ヶ條相省キ壬申九月第百
 三十二號同七月第九十四號布達ノ條々十五條ヨリ十七
 條迄へ差加猶規則別紙ノ通更正相達候事

別紙地券渡方規則

第十五條 即壬申九月第百三十
 二號布達增補改正ノ條

一 筆ノ地所ヲ裂キ賣買致シ候儀願ニヨリ差許候ニ付テ
 ハ舊地主へ殘置候分并裂地ニ致候分トモ地所ノ番號ハ
 在來ノ儘据置幾廉ニ分裂候共何番ノ内誰持地ト記シ可
 申券狀番號ノ儀ハ地所ノ番號ニ不拘券狀渡之順番ニ可
 致事

第十六條 即壬申七月第九十
 四號布達增補ノ條

田畑共幾筆モ合筆致シ券狀一通ニ相記シ候儀願ニヨリ
 可差許右様ノ分ハ一筆限リ別冊ニ致シ一人別ニ爲差出

地券證ハ其人毎ニ總反別相記シ一筆限リ別冊有之段腹書ニ相顯一筆限帳別冊ト券狀ト割印ヲ押シ地券ノ番號而已相記シ地所ノ番號ハ總テ別冊ノ肩書ニ一々相記シ可相渡事

但一筆限帳扣一通リ爲差出於其廳一村限リ取纏置可申事

第十七條 即同上増補ノ三

證印稅ノ儀拾圓以下ノ分ハ都テ五錢可取立事

第十八條

屋敷地ノ外切歩ノ儀ハ百坪以下ハ難相成事

但是迄一筆限リ右以下ノ坪數ヲ所持有之分ハ此限ニ非ス

第十九條

地券合筆一紙ヲ以テ渡方相願候者ハ別冊一筆限ノ代金へ賣買規則第十一則ノ割合ヲ以テ證印稅取立可申事

第二十條

總テ人民所持ノ地所後來御用ノ節ハ地券ニ記セル代價ヲ以テ御買上可相成事

但家作等有之地所上地ノ儀ハ必ズ持主承諾ノ上タルへシ尤世上一般利益ノ爲ニ御用相成候節ハ券面通ノ代金及ヒ其建物等ニ應シ相當ノ手當差遣シ上地可申付事

第二十一條

從前切添切開并高外地へ試作致シ候歟或ハ除地見捨地等へ家屋取立候歟林藪之類開發致シ候種類其他隱田ヲリ此度限リ一切差許候間有休可書出旨可申渡事

第二十二條

地券相渡シ候後ニ於テ隱田等有之候節ハ此規則第十二條密賣買ノ例ヲ以テ所置可致事

但隱田ハ賣買ノ代金無之候ニ付地所ノミ取上可申且其地所ハ入札拂取計右代價ノ三分通り村役人ヨリ可取立事

第二十三條

從前切畝致シ檢地帳名寄帳小拾帳等ニ突合ザル共現地ノ景況ニ隨ヒ總テ地引繪圖可差出旨說示可致事

第二十四條

反別等持主申立ヲ以テ檢地帳へ引合セ相違無之分ハ据置ノ積相心得檢地竿入等取計不及候得共地所境界紛雜取調差支候向ハ一筆限畝杭ヲ打地引繪圖爲差出落地無

之様實地檢査可致事

但餘歩有之地所檢地帳ニ比較増歩相成候分ハ人民申立ノ通据置右ニ相反シ檢地帳ヨリ減歩相成候地所竿入檢査ノ上減歩可致事

第二十五條

從前高内外ニ不拘社寺鄉藏ノ類或ハ埋葬地等地主定リ無之分ハ地引繪圖中ニ其譯可記置事

第二十六條

村持ノ小物成場山林ノ類ハ地引繪圖中色分々致シ可申事

第二十七條

堤外附寄洲又ハ流作場等不定地ノ類大繩場ニ相成居持主有之候ハ、格別確定ノ持主無之地所ハ入札拂ニ致シ

持主相定メ可申若シ持主ニ難相定分ハ拜借地ノ積可相心得事

第二十八條

從前高内外ニ不拘郷藏敷村圍穀積藏敷ノ類人民ニ關係之分ハ地券ヲ定メ一村總持ト可致事

第二十九條

堰料堤敷道敷川床數等ノ類潰地高内永引之分ハ自今無稅地ニ相定メ可申事

第三十條

墓所地ハ從前ノ通無稅地ト可致事

第三十一條

本田畑ト雖モ村民退轉致シ持主無之荒地ハ其反別ヲ點檢致シ入札拂ノ積相心得管内普ク布告可致事

第三十二條

持主有之荒地ハ反別坪數等綿密ニ逐檢査起返ノ手數勘辨ノ上至當ノ年期ヲ定メ代價ヲ記セサル券狀ヲ其持主ニ相渡年期中無稅ト可相定事

第三十三條

但荒地券狀證印稅ハ反別ノ多少ニ不拘一筆ノ地所ヨリ五錢ノ印稅ヲ收入スベシ

第三十四條

持主無之荒地並持主有之荒地共一部限反別仕譯繪圖面相添可届出事

村持ノ山林郊原其地價難定土地ハ字反別ノ記セル券狀ニ從前ノ貢額ヲ記シ肩ニ何村公有地ト記シ其村方ニ可相渡置事

但池沼ノ種類モ同斷ノ事

第三十五條

兩村以上數村入合ノ山野ハ其村々ヲ組合トシ前同様ノ仕方ヲ以テ何村何村ノ公有地ト認メ券狀可渡置尤其券狀ハ組合村方年番持等適宜ニ可相定事

第三十六條

總テ山林原野ノ類反別難相分ハ先以テ無反別ニ致シ漸次點檢ノ積可心得事

第三十七條

總テ右種類ハ地界ヲ券狀ニ記載ス可シ譬ヘハ東耕地西字何山南某川北某村字何原ト如斯詳カニ記註スヘキ事

第三十八條

從前無稅地ニ住民有之候得共地位下等ニシテ他ヨリ望

人ナキヲ以テ地價ノ目的難相立節ハ一反步ノ則三百步ニ付十圓以上ノ地價ニ定ムヘキ事

第三十九條

地所引合相濟候ハ、落地無之旨地主一同調印ノ上戸長以下ノ誓文請書可申付事

第四十條

右種類地有稅無稅ノ區界ヲ仕譯村限リ地券臺帳ノ末ニ記載可致事

右之通相達候事

(第四百九十五條) 明治七年十月三日第四百四號御布告

地所賣買致シ候節代金受取ノ證文有之トモ地券申受ケサレハ買主ニ其地所所有ノ權無之候條規則ノ通地券書替申請ヘシ若シ地券ヲ申受スシテ後日發覺スル時ハ罰

金トシテ證印稅ノ地券書替一倍ヲ科スヘク此旨布告候事
改正布告第四百九十六條參看

(第四百九十六條) 明治八年六月十八日第百六號御布告

明治七年十月第十四號布告左ノ通改正候條此旨布告候事
地所賣買致シ候節代金受取ノ證文有之共地券申受ケサ
レハ買主ニ其地所々有ノ權無之候條規則ノ通地券書替
可申受事

○新舊公債証書發行條例

(第四百九十七條) 明治六年三月二十五日第百十五號御達

新舊公債証書發行條例別冊ノ通制定候條此旨相達候事
改正布告第四百九十九條參看

別冊新舊公債証書發行條例

明治四年辛未七月廢藩ノ前從來舊藩々ニ於テ内國人民
ヨリノ逋債ヲ改テ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ
其債主ヘハ各此公債証書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之ヲ償却
スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ種類記號ノ品別等ヲ明カニス

第一節 弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊諸藩ニ於
テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元戊辰年大政
更始以後明治四辛未年七月廢藩迄舊諸藩ニ於テ借用
シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ

第二節 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三
第四第五トシ證書面ノ金高ヲ五百圓三百圓一百圓五
拾圓貳拾五圓ノ五種ニ區別ス可シ

第三節 新公債証書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ

償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四十七部分ニ別チ(イロハ) 四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條 新舊公債償却ノ年度及ヒ利息ノ割合ヲ明ニス

第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年マテ五十箇年賦トシ毎年六月一日ヨリ十五日迄十二月一日ヨリ十五日迄兩度ツ、之ヲ拂戻ス可シ尤モ其拂場所ハ證書面ニ掲載スル如ク一箇月前ニ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク所持人ニ通知セシム可シ

第二節 新公債ノ元金ハ明治八年ヨリ明治二十九年マテ二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其割合ニ從テ之ヲ拂戻ス可シ

第三節 其利息ハ年々元高ノ四分トシノ元高百分明治五年壬申ヨリ明治二十九年マテ毎年六月一日ヨリ十五日迄十二月一日ヨリ十五日迄兩度ニ證書ノ下ニ附添シタル小札ヲ以テ之ヲ拂フ可シ尤モ其拂場所ハ證書面ニ掲載スル如ク一箇月前ニ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク所持人ニ通知セシム可シ

第三條 公債證書ノ渡方及ヒ其簿記ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書共各債主ヘ交付スルニハ大藏省ニ於テ其金高及ヒ新舊ノ區分共調査シテ後之ヲ簿冊ニ登記シ證書五種ノ區別新公債ナラハ四中ニ於テ其金高ニ應シ相當ノ割合ヲ定メ其證書ハ簿冊ニ割印シテ各債主ノ管廳ニ送達ス可シ

但シ此公債證書ヲ其管廳ニ送達スルニハ勿論其債

主ノ名面金高證書ノ種類等詳明ニ目錄書ヲ添テ相渡スヘシ

第二節 各地方官廳ニ於テハ別ニ公債掛ノ局ヲ設ケ各種ノ簿冊ヲ備ヘ大藏省ヨリ渡サレタル證書ヲ點檢シ其債主ノ名面及ヒ證書ノ金高種類ヲ分別シテ之ヲ簿冊ニ登記シ且其證書裏面ヘ悉ク債主ノ名面ヲ記入シ官廳ノ檢印ヲ加ヘテ其渡方ヲ取計フ可シ

第四條 舊公債證書元金年賦並ニ新公債

第一節 每年兩度舊公債元金年賦並ニ新公債利息下渡シ方ハ各地方官ニ於テ各管下ノ公債證書所持人ノ數ヲ取調其季ノ渡シ方ニナルヘキ元金年賦ト利息トノ内譯合計表ヲ毎年五月二十日十一月二十日迄ニ大藏省ニ差出ス可シ

第二節 大藏省ヨリ右合計表ニ從テ其下渡スヘキ金高

ヲ拂場所ヘ廻送ノ手續ヲナシ臨時官員出張スルカ又ハ其地方官ニ委任シ都テ證書ノ下ニ附添スル其季ノ拂方ニ屬スル小札ヲ切取リ引換ニ其拂方ヲ爲スヘシ

第三節 右切取リタル小札ハ其拂方ヲ爲シタル明細調

書ト共ニ直ニ之ヲ大藏省ニ送納ス可シ

第五條 新公債證書拂方諸般ノ手續ヲ明ニス

第一節 新公債證書ノ拂方ヲ抽籤ニテ賦當スルニハ毎年又ハ隔年大藏省ノ都合ニ從ヒ東京大坂西京其他要用ナル場所ヘ大藏省官員出張シテ其地方官ノ公債掛ト立會ノ上管下ノ證書所持人十人以上ヲ集メ其年拂戻スヘキ高ニ從ヒ右證書所持人等ノ眼前ニ於テ記號籤ヲ抽キ其籤ニ當リシ記號ヲ其年ノ拂戻スヘキモノ

ト定ム可シト第一法若シ大藏省ニテ拂戻スヘシト見込
 タル金高右一記號ノ金高ヨリ少キ時ハ其籤ニ當リシ
 記號ノ金高ヲ分割シ再ヒ籤ヲ抽テ其拂フヘキ部分ヲ
 定ム可シト第二法若又其高一記號ヨリ多キト一倍又ハ
 幾倍ト幾部分ナル時ハ第一法ヲ以テ一倍又ハ幾倍ノ
 記號ヲ定メ第二法ヲ以テ幾部分ノ拂方ヲ定ム可シ
 第二節 抽籤ノ處置相濟ニ賦當ノ記號公定スレハ立會
 タル證書所持人等ヨリ其抽籤ノ方法公正ナル事ヲ保
 證スルタメ書面ヲ出サシメ然ル後何記號ノ證書ハ何
 月何日何處ニ於テ拂戻スヘシト云フコトヲ布告書又
 ハ新聞紙ニテ普ク世上ニ公告ス可シ
 第三節 右拂場所ヘハ大藏省ヨリ拂戻スヘキ金高ノ廻
 送ヲナシ公債拂方ノ官員出張シテ時宜ニヨリテ地方
 官ニ委任スルコト

ハアル其籤ニ當リタル證書引換ニ其拂方ヲナシ其證書
 ハ拂濟ノ證ヲ印シ明細書第一ト共ニ直ニ大藏省ニ送
 納ス可シ
 第四節 右拂方ノ取扱ハ年賦又ハ利大藏省ノ都合ニヨ
 リテ追テ各地ニ創立スヘキ國立銀行ニ命シ名代人ト
 シテ其處置ヲ爲サシムルコトアルヘシ
 第六條 新舊公債證書授受賣
 買新舊公債證書授受賣
 第一節 新舊公債證書共全ク所持人ノ所有物タルハ相
 續人ヘノ遺物ハ勿論何人ニ不拘他人ヘ讓渡質入賣買
 借金ノ抵當等都テ勝手タルヘシ尤モ其讓渡賣買等ハ
 次條ノ手續ニ從フ可シ改正布告第四百
 第二節 證書ヲ授受及ヒ賣買スルニハ雙方ノ示談整ヒ
 シ上ニテ甲ノ方讓リ主賣ハ證書裏面ヘ形ノ通り形

記名調印シテ別ニ其證書ノ種類記號金高月日及ヒ乙
受ル者買ノ姓名等ヲ認メ其證書ト共ニ甲ヨリ之ヲ其
管廳ニ差出ス可シ

第三節 管廳ノ公債掛ハ右證書ト届書トヲ受取り其次

第ヲ承リ正シ證書裏面ヘ形ノ如ク第二年號月日ヲ記

シ檢印シテ之ヲ其差出セシ者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ

詳記ス可シ

第四節 右ノ手續ニテ檢印濟ノ證書ヲ甲ヨリ乙ニ受取

レハ乙ハ其證書ノ金高種類記號及ヒ甲ノ名面取引ノ

年號月日等ヲ詳記シテ之ヲ其管廳ヘ届出可シ

但甲乙共同管下ノ者タレハ乙ハ別ニ届書ヲ出スニ

及ハス

第五節 乙ノ管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備ヘ置

タル簿冊ヘ其證書ノ種類記號金高及ヒ其名面取引ノ
年號月日ヲ登記シ置ク可シ

第六節 右ノ手續ヲ以テ取引タル證書ヲ更ニ他人ニ

譲リ渡ス時モ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置ス可シ

第七節 右證書ノ讓渡賣買等ノ事アレハ雙方ノ管廳ヨ

リ其名面證書ノ種類記號金高及ヒ取引ノ月日等ヲ詳

記シ每年少クトモ三度宛大藏省ヘ届出可シ改正布告

第十七條

第八節 都テ讓渡シ又ハ賣買等此手續ヲ厭ヒ密ニ相對

ノミノ取引ヲ爲シタル證書ハ他日其間ニ紛議ヲ生ス

ル共之ヲ取上ケス且其證書ハ廢物トナス可シ改正布告

第九條

第九節 毎年五月十五日ヨリ六月十五日十一月十五日

ヨリ十二月十五日迄ハ元金償却並ニ利息渡方ニ於テ
各地方證書所持人ノ混淆セサルタメ右證書ノ讓渡賣
買ハ之ヲ見合ス可シ改正布告第四百九十八條參看

第七條 新舊公債證書引當物等ニシテ
第一節 此證書借金ノ引當又ハ質物ノ證據金トシ所持

人ヨリ他ニ預ケ置クコト有リトモ其拂戻スヘキ元金
利息ハ其所持人ヘ下渡スヘシ
尤モ本人調印ノ委任狀ヲ持參セル時ニハ何人ヘナリ

共相渡ス可シ
第二節 若シ又質入流込トナリタル類ハ第六條讓渡賣

買ノ手續ヲナシテ其所持人ノ名面ヲ改ム可シ
第八條 新舊公債證書共裏書并ニ

第一節 公債證書讓渡賣買頻繁ニシテ裏面場所ナキニ

至ル時ハ其所持人ハ書面ヲ以テ其管廳ニ申立新證書
ニ書替ヲ願ヒ其證書ヲ差出スヘシ

第二節 管廳公債掛ハ其證書ノ假受取ヲ所持人ニ渡シ
置キ證書ハ直ニ大藏省ヘ差出シ新證書ニ引換ヘ其次

第年號月日等ヲ簿冊ニ記入シ假受取ト引換ニ之ヲ所
持人ニ渡ス可シ
第九條 新舊公債證書共紛失

第九條 新舊公債證書共紛失

第一節 此證書ノ所持人若シ證書ヲ取失フカ又ハ盜難

ニ逢テ證書ヲ盜取ラレシ時ハ直ニ何號何番何高ノ證
書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラレタル由ヲ其管廳ニ届出管
廳ヨリ之ヲ大藏省ヘ届出ツ可シ

但管廳ニテハ大藏省ヘ届出ル時其管内ヘ其趣ヲ布
告ス可シ

第二節

大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ
證書ノ種類金高等迄各地方廳へ公告シ何月何日後ハ
右種類番號ノ證書ハ持參シテ讓渡賣買等ノ檢印ヲ乞
ハ、之ヲ取押へ推糺ノ後其次第ヲ届出ツへキ旨ヲ通
達シ且新聞紙其他ノ手續新聞紙ナキ地ハ村町ヲ以テ
右證書ノ取引ヲ爲ス可ラサル旨ヲ紛失又ハ盜取ラレ
シ月ノ翌月ヨリ六月間公布ス可シ

第三節

右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息共之ヲ拂
ヒ渡サ、ル可シ

第四節

六箇月ヲ過テ其證書發見セサレハ大藏省ニテ
其證書ニ換へ可キ新證書ヲ作り其管廳ヲ通シテ之ヲ
所持人へ交付ス可シ尤公告時間中ニ積リタル元利ノ
高ハ其新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同之ヲ拂渡

スヘシ

但此新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜
難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ交付スルノ趣
旨ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入ス可シ

第十條

新置公債證書共燒失等
處置手續ヲ明ニス

第一節

水火災ニテ證書流失燒失ノ事アレハ所持人ハ
前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ申立新證書
下渡方ヲ乞フ可シ

第二節

管廳ノ公債掛ハ其流失燒失ノ次第ヲ推糺シ判
然タルハ直ニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省へ申立
ヘシ

但其流失若シ判然タラサレハ第九條紛失ノ手續ニ
從テ之ヲ處置ス可シ

第三節 大藏省ニテハ其申立ニ從テ代リ證書ヲ作り之
ヲ其管廳ニ送達シテ所持人ニ交付ス可シ
但證書流失ニ付新證書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官
ノ簿冊ニ詳記ス可シ

第四節 若シ又水火災ニテ其證書ノ部分焼切レ又ハ消
滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ殘餘ノ證書片ヲ
添へ書面ニテ其由ヲ其管廳ニ申立證書ノ書替ヲ乞フ
可シ

第五節 管廳ノ公債掛ハ其證書ノ紙片ヲ添へ書面ニテ
大藏省へ申立書替證書ヲ得テ之ヲ所持人ニ下渡ス可
シ

但其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記ス可
シ

第十一條 新舊公債證書贗造

第一節 何人ニ不拘公債證書ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ
又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊付ニスル等ノ事ヲ爲ス可ラス
若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以上ノ罰金ヲ
命ス可シ

第二節 何人ヲ論セス此公債證書ヲ贗造シ又ハ人ヲシ
テ之ヲ摸擬セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造
ト知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又
ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之
ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品雛形ノ圖畫文字等ヲ所
持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處ス可シ

第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ何時ニテ

モ此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正ス可シ
第二節 右增補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告ス
ヘシ

右之通相定候事 增加布告第四百
九十八條參看

本文第一雛形之義ハ追テ可相達事

證書賣讓 渡裏書同與書雛形第二號書式之

(第四百九十八條)

明治七年六月十七日第六十六號御布告

明治六年三月第百十五號布告新舊公債證書發行條例中左

之通改正增加候條此旨布告候事

第六條改正

第一節 新舊公債證書全ク所持人ノ所有物云々

但其家相續人ヘノ遺物ハ書替ニ及ハスト雖モ其管
轄廳ヘ届出ヘシ其廳ニテハ簿冊ヘ其譯並ニ名面年

號月日等登記スヘシ

第七節 右證書管轄違ニテ讓渡賣買等ノ事アレハ甲ノ

管廳ヨリハ即日乙ノ管廳ヘ其證書ノ種類記號金高及

名面取引ノ年號月日ヲ詳記シ送達スヘシ若シ其送達

ヲ甲ノ管廳ニテ怠ルアレハ乙ノ管廳ヨリ之ヲ督促シ

主任ノ官員ハ違令ノ罪ヲ以處スヘシ且大藏省ヘハ一

箇月分ヲ翌月五日迄ニ取調遲滯ナク届出ヘシ

但乙ノ管廳ニテハ右送達之ナキ間ハ猶賣買スルヲ

差留置ヘシ

第八節 都テ讓渡シ賣買等此手續ヲ厭ヒ候歟或ハ心得

違ニ候共相對ノ取引ヲ爲シタル時ハ其金高三割ノ罰

金ヲ申付ヘシ且其間ニ紛議ヲ生スル共取上カルヘシ

第九節 毎年五月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨ

リ十二月十五日迄ハ以下從前ノ通

增加

第一條 華士族平民共此證書所持セシ者後日管轄替スル節ハ甲管廳ヨリ乙管廳へ相達スル儀ハ第六條第七節ノ通タルヘシ本人ハ所持ノ證書種類記號金高及ヒ轉籍ノ年號月日住居ノ地名等詳記シ乙管廳ニ届出ヘシ乙管廳ニテハ簿冊へ登記シ割印シテ下ケ渡スヘシ

第二條 寄留人へ證書讓渡賣渡申出ル節ハ寄留地ノ管廳ニ於テ本管ノ人民同一ノ取扱ヲ以許可致シ苦シカラス就テハ年々元利金拂渡モ其廳ノ主務タルヘシ但後日本籍へ復歸致ス時ハ本人ヨリ證書引繼ヲ願出レハ即日公債帳簿上ヲ削除シテ本人ノ管廳へ證書ノ種類記號番號及ヒ讓渡相成候年月日手續共通

達スヘシ本人ヨリハ所持ノ證書種類記號番號及ヒ復歸ノ月日住居地名等詳記シ本貫管廳へ届出ヘシ管廳ニテハ簿冊へ登記シ割印シテ下ケ渡スヘシ

第三條 新舊公債證書ヲ所持致シ居ル者他府縣へ寄留後其土地ノ人民或ハ他府縣下ノ人民ニ讓渡賣渡ヲ欲スル歟又ハ相續人へ遺物トナス時ハ寄留人ヨリ其住居ノ地名并ニ證書ノ記號番號金高枚數且讓渡スヘキ者ノ住所姓名ヲ詳記セル實印ノ申狀ヲ以テ本管廳へ願立ヘシ本管廳ニテハ之ヲ聞届ケ公債帳簿上ヲ削除シ即日其詳記セル申狀ノ寫へ添翰シテ寄留先ノ府縣廳へ送達スヘシ其府縣廳ニテハ即チ本人所持ノ證書種類記號番號及ヒ取引ノ年號月日等相糺シ相違之ナキニ於テハ都テ讓渡賣渡ノ手續ヲ示セル條例ニ照準

シテ取計ヘシ尤買主寄留人タラハ增加第二條ノ通ヲ
ルヘシ

證書讓渡裏書同奥書雛形第二號改正書式之畧

右ノ通タルヘシ尤既ニ施行濟ノ分ハ此限ニアラス

(第四百九十九條) 明治八年五月二十五日第九拾五號御布

告

明治六年三月第三百拾五號及ヒ同七年六月第六拾六號布告新
舊公債證書發行條例別冊ノ通改定候條此旨布告候事

別冊新舊公債證書發行條例

明治五年壬申年迄ノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリ
ノ通債ヲ改テ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債
主ヘハ各此公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之ヲ償却スル
ニ付政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ
種類記號ノ品別等ヲ明ニス

第一節 弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊諸藩ニ於
テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元戊辰年太政
更始以後明治四辛未年七月廢藩迄及明治五壬申年迄
ノ間舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ新公債ト稱スヘ
シ

第二節 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三
第四第五トシ證書面ノ金高ヲ五百圓三百圓一百圓五
十圓二十五圓ノ五種ニ區別スヘシ

第三節 新公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ
償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四拾七部分ニ別チ(イロハ)
四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條 新舊公債償却ノ年度及
ヒ利息ノ割合ヲ明ニス

第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十箇年賦トシ其年ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割合ニ隨テ之ヲ拂戻スヘシ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九年迄毎年十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ
但明治八年ヨリ抽籤法ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ
ハ年四分ノ利息月割ヲ以右抽籤法行ヒシ月迄ノ分

下ケ渡スヘシ

第三條 公債證書ノ渡方及ヒ其手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書共各債主ヘ交付スルニハ大藏省ニ於テ其金高及ヒ新舊ノ區分共調査シテ後之ヲ簿冊ニ登記シ證書五種ノ區別十七種ノ記號ハ四中ニ於テ其金高ニ應シ相當ノ割合ヲ定メ其證書ハ簿冊ニ割印シテ各債主ノ地方管廳ニ送達スヘシ
但此公債證書ヲ其地方管廳ニ送達スルニハ勿論其債主ノ名面金高證書ノ種類等詳明ニ目錄書ヲ添テ相渡スヘシ

第二節 各地方管廳ニ於テハ別ニ公債掛ノ局ヲ設ケ各種ノ簿冊ヲ備ヘ大藏省ヨリ渡サレタル證書ヲ點檢シ其債主ノ名面及ヒ證書ノ金高種類ヲ分別シテ之ヲ簿

冊ニ登記シ且其證書裏面ニ悉ク債主ノ名面ヲ記入シ
管廳ノ割印ヲ加ヘテ其渡方ヲ取計フヘシ

第四條 舊公債證書ノ利息渡方手續等ヲ明ニス

第一節 毎年舊公債元金年賦並ニ新公債利足下渡シ方
ハ各地方官ニ於テ各管下ノ公債證書所持人ノ數ヲ取
調其年ノ渡シ方ニナルヘキ利息並ニ元金年賦共金額
内譯合計表ヲ毎年十月三十一日迄ニ大藏省ニ差出ス
ヘシ 百政正布告第五
第二節 大藏省ヨリ右合計表ニ從テ其下渡スヘキ金高

ヲ拂場所ニ廻送ノ手續ヲナシ臨時官員出張スルカ又
ハ其地方官ニ委任シ都テ證書ノ下ニ附添スル其年ノ
拂方ニ屬スル小札ヲ切取り引換ニ其拂方ヲ爲スヘシ
第三節 右切取りタル小札ハ其拂方ヲ爲シタル明細調

書ト共ニ直ニ之ヲ大藏省ニ送納スヘシ

第五條 新公債證書拂方諸般ノ手續ヲ明ニス

第一節 新公債證書ノ元金拂方ヲナスニハ毎年又ハ隔
年大藏省ノ都合ニ從ヒ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡スヘシ右
抽籤ノ法ハ證書ノ記號ヲ明ニシ其年拂戻スヘキ金高
ヲ定メ此金高ニ證書ノ高ナ部分シ東京或ハ大坂等證
書ノ金額最モ多キ場所ニ國債寮ノ官員出張シテ其地
方及公債掛立會ノ上管下ノ證書所持人十人以上ヲ集
メ眼前ニ於テ籤ヲ抽キ其籤ニ當リシ部分ヲ其年ノ拂
戻スヘキモノト定ムヘシ

第二節 抽籤ノ處置相濟ニ賦當ノ記號公定スレハ立會
タル證書所持人等ヨリ其抽籤ノ方法公正ナル事ヲ保
證スルタメ書面ヲ出サシメ然ル後何記號ノ證書ハ何

月何日何處ニ於テ拂戻スヘシト云フコトヲ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク世上ニ公告スヘシ

第三節

右拂場所ヘハ大藏省ヨリ拂戻スヘキ金高ノ廻送ヲナシ公債拂方ノ官員出張シテ時宜ニ委任スルコトアル其籤ニ當リタル證書引換ニ其拂方ヲナシ其證書ハ拂濟ノ證ヲ印シ明細書ト共ニ直ニ大藏省ニ送納スヘシ

第四節

右拂方ノ取扱ハ年賦又ハ利大藏省ノ都合ニヨリテ追テ各地ニ創立スヘキ國立銀行ニ命シ名代人トシテ其處置ヲ爲サシムルコト有ルヘシ

第六條

新舊公債證書授受買賣新舊公債證書手續ヲ明ニス

第一節

新舊公債證書共全ク所持人所有物タルハ相續人ヘノ遺物ハ勿論他人ヘ外國人讓渡シ質入賣買借金

ノ抵當等都テ勝手タルヘシ尤モ其讓渡賣買等ハ次條ノ手續ニ從フヘシ

但其家相續人ヘノ遺物ハ書替ニ不及ト雖モ其管廳ヘ届出ヘシ其廳ニテハ簿冊ヘ其譯并名面年號月日等登記シ其都度大藏省ヘ届出ヘシ

第二節

証書ヲ授受及ヒ賣買スルニハ雙方ノ示談整ヒシ上ニテ甲ノ方讓リ主賣ハ証書裏面ヘ形ノ通り裏面記名調印シテ別ニ其証書ノ種類記號番號金高枚數月日及ヒ乙人ナル者買ノ姓名等ヲ認メ其証書ト共ニ甲ヨリ之ヲ其管廳ニ差出スヘシ

第三節

管廳ノ公債掛ハ右証書ト届書トヲ受取り其次第ヲ承リ正シ証書裏面ヘ形ノ如ク裏面年號月日ヲ記シ檢印シテ之ヲ其差出セシ者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ

詳記シ大藏省へハ翌月五日迄ニ届出ヘシ

第四節 右ノ手續ニテ檢印濟ノ證書ヲ甲ヨリ乙ニ渡シタル時甲乙トモ同管下ノ者ナレハ別ニ届書ヲ出スニ及ハスト雖モ管轄違ヒナレハ其證書ノ種類記號番號枚數及ヒ甲ノ姓名年號月日ヲ詳記シテ乙ヨリ其管廳へ速ニ届出ヘシ若シ遠隔ノ地方へ旅行先ニテ買受タル時管廳ノ地ヲ距ル百里以内ハ二十日百里以上三百里以内ハ四十日三百里以外ハ總テ六十日限り届出ヘシ若此日限ヲ等閑ニ相心得後日届出候者ハ事故裁判ノ上其金高三割以下ノ罰金ヲ命スヘシ

但利賦金拂方施行中ニ讓受買受ノ證書他ノ地方ヨリ増加シ來ル分ハ先買主ノ届出ヲ聞置最初ノ拂方相濟シ上ニテ利賦金受取方追加表ヲ制シ尙大藏省

ニ差出スヘシ

第五節 乙ノ地方管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備

へ置タル公債簿冊へ其證書ノ金高種類記號番號枚數及ヒ其名面取引ノ年號月日ヲ登記シ且證書へ割印シテ下ケ渡スヘシ

第六節 右ノ手續ヲ以テ引取リタル證書ヲ更ニ他人ニ外國人讓リ渡ス時モ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第七節 新舊公債証書ヲ管轄違ヒニテ讓渡賣買等ノ事アレハ甲ノ地方管廳ヨリハ即日乙ノ地方管廳へ其証書ノ種類記號金高及ヒ名面取引ノ年月日ヲ詳記シ送達スル時直ニ公債牒簿上ヲ削除スヘシ尤此時証書へ割印ヲ爲スニ不及乙管廳ニテハ右送達書ヲ得タレハ

直ニ其旨ヲ甲管廳へ回報スヘシ尤甲管廳ヨリ乙管廳
へ送達ノ封書ヲ都合ニ因テ讓受買受人へ托シテ送達
スルモ妨ナシ若其送達ヲ甲ノ管廳ニテ怠レハ乙ノ管
廳ヨリ之レヲ督促シ主任ノ官吏ハ違令ノ罪ニ處スヘ
シ且大藏省へハ一月分翌月五日迄ニ甲乙管廳ヨリ互
ニ届出ヘシ

但乙ノ管廳ニテハ右送達之ナキ間ハ其證書賣買ス
ルヲ差留置ヘシ

第八節 新舊公債証書所持ノ者管轄替相成ル節ハ甲ノ
地方管廳ヨリ乙地方管廳へ相達スル儀ハ第七節ノ通
リタルヘシ本人ハ所持ノ證書種類記號番號金高枚數
及ヒ轉籍ノ年號月日住居ノ地名等詳記シ乙管廳ニ届
出ヘシ管廳ニテハ公債簿冊へ登記シ證書へ割印シテ

下渡スヘシ

第九節 他ノ府縣ヨリ寄留ノモノ新舊公債證書ヲ讓受
買受ムトスル時ハ寄留地ノ管廳ニ申立管廳ニテハ本
管ノ人民同一ノ取扱ヲナスヘシ就テハ年々元利金モ
其廳ヨリ拂渡スヘシ

但後日本籍へ復歸スル時ハ本人ヨリ即日管廳へ届
出ヘシ管廳ニテハ復歸ノ地方廳へ通達方並本人届
方等第八節ノ通タルヘシ

第十節 新舊公債證書所持ノモノ他ノ府縣へ寄留スル
時ハ年々元利拂及讓渡シ賣渡トモ寄留地管廳ノ主務
トナスニ付寄留セムトスル者ハ證書ノ種類記號番號
金高枚數トモ本管廳へ届出ヘシ本管廳ニテハ寄留地
ノ管廳へ送達シ寄留地ノ管廳是ヲ受テ取扱ヲナス手

續ハ第七節第八節ニ照準スベシ若シ其身他へ寄留ス
 ト雖モ都合ニ因テ公債證書ハ本貫へ殘シ置年々元利
 受取或ハ讓渡賣渡ヲナス如キハ寄留地管廳ニテ與カ
 ル事ナカルヘシ然レトモ所持高ノ内都合ニ因テ幾分
 カ引分ケ寄留先へ携帶スル時ハ其分ヲ本管廳へ届出
 本管廳ヨリ寄留地ノ管廳へ送達ノ手續ハ前條ニ記載
 セル通タルヘシ尤本貫へ殘シタル證書ハ本管廳ノ所
 轄勿論ニシテ年々元利受取或ハ讓渡賣渡等本人ヨリ
 委任狀ヲ與ヘシ代理人ヲ以テ其取扱ヲ爲シ妨ケナカ
 ルヘシ

但シ後日本籍へ復歸スル時ハ第九節但書ノ通タル
 へシ

第十一節 都テ讓渡シ又ハ賣買等此手續ヲ厭ヒ密ニ相

對ノミノ取引ヲ爲ヘカラス若犯ス者アレハ裁判ノ上
 其元高三割即十分以下ノ罰金ヲ命スヘシ

第十二節 毎年十二月一日ヨリ十五日マテニ新公債利

息並舊公債元金年賦渡シ方ヲナスニ付十一月一日ヨ
 リ十二月十五日迄ハ各地方證書所持人ノ混淆セサル

タメ右證書ノ讓渡賣買ヲ見合スヘシ

第七條 新舊公債證書引當物等ニテ

第一節 新舊公債證書借金ノ引當又ハ質物ノ證據金ト
 シ所持人ヨリ他ニ預ケ置クコト有リトモ其拂戻スヘ
 キ元金利息ハ其所持人へ下渡スヘシ尤本人調印ノ委
 任狀ヲ持參セル時ニハ外國人ヲ除ノ外何人へナリト
 モ相渡スヘシ

第二節 若シ又質入流込トナリタル類ハ讓り渡賣買ノ

手續ヲナス事第六條第二節三節四節ノ通タルヘシ

第八條 新舊公債證書共裏面並ニ

第一節 新舊公債證書讓渡賣買頻繫ニシテ裏面記名ノ

場所ナキニ至ル時ハ其所持人ハ書面ヲ以テ其地方管

廳ニ申立證書ノ繼足ヲ願ヒ其證書ヲ差出スヘシ

第二節 地方管廳ニテハ其證書ノ假受取ヲ所持人ニ渡

シ置證書ヘハ兼テ大藏省ヨリ渡置タル記名紙ヲ補足

シ割印シテ其次第年號月日等ヲ簿冊ニ記入シ假受取

ト引換ニ之ヲ其所持人ニ渡スヘシ

第九條 新舊公債證書共紛失

第一節 新舊公債證書ノ所持人若シ證書ヲ取失フカ又

ハ盜難ニ逢テ證書ヲ盜取ラレシ時ハ何號何番何高ノ

證書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラレタル由ヲ直ニ其地方管

廳へ届出管廳ヨリ之ヲ大藏省へ届出ヘシ

但管廳ニテハ大藏省へ届出ル時管内へ其趣ヲ布達

スヘシ

第二節 大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ

證書ノ種類番記號枚數等ヲ掲ケ何月何日後ハ右證書

ヲ取引スヘカラス又何人ニ不限所持致居候ヲ見聞候

者ハ速ニ管轄廳へ訴出管轄廳ヨリハ即大藏省ニ可届

出旨ヲ布達ス地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ新聞紙其他

ノ手續新聞紙ナキ地ハ村町ヲ以テ紛失又ハ盜取ラレ

シ月ヨリ七箇月間管内へ公布スヘシ

第三節 右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息共之ヲ拂

ヒ渡サ、ルヘシ

第四節 七箇月ヲ過テ其證書發見セサレハ大藏省ニテ

其證書ニ換フ可キ新證書ヲ作り其地方管廳ニ通シテ之ヲ所持人へ交付スヘシ尤公布時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同之ヲ拂渡スヘシ

但此新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ交付スルノ趣旨ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入スヘシ

第十條 新舊公債證書共燒失等

第一節 水火災ニテ證書流失燒失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ申立新證書下渡方ヲ乞フヘシ

第二節 管廳ニテハ其流失燒失ノ次第ヲ推糺シ判然タレハ直ニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省へ申立ヘシ

但其流燒失若シ判然タラサレハ第九條紛失ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第三節 大藏省ニテハ其申立ニ從テ代リ證書ヲ作り之ヲ其管廳ニ送達シテ所持人ニ交付スヘシ

但證書流燒失ニ付新證書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第四節 若シ又水火災ニテ其證書ノ部分燒切レ又ハ消滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ其管廳ニ申立證書ノ書替ヲ乞フヘシ

第五節 其管廳ニテハ其證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ大藏省へ申立書替證書ヲ得テ之ヲ所持人ニ下渡スヘシ但其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第十一條 新舊公債證書贗造

第一節 何人ニ不拘公債證書ヲ故ラニ剝去リ又ハ切裂
キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニスル等ノ事ヲナスヘカ
ラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰
金ヲ命スヘシ

但舊公債證書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去余殘ノ小札
金額ニ依テ計算シ罰金ヲ當ルモノトス

第二節 何人ヲ論セス此公債證書ヲ贗造シ又ハ人ヲシ
テ之ヲ摸擬セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造
ト知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又
ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之
ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品雛形ノ圖畫文字等ヲ所

持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及償
却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スル
コアルヘシ

第二節 右增補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告ス
ヘシ

右之通相定候事

證書賣渡裏面雛形

割印

一此證書是迄拙者所持ノ處貴殿へ讓賣渡候事實正也

明治 年 月 日

甲 某 殿 印

何府縣下何大區何小區何町何番地

乙 某 殿

本文之通相違無之者也

何府縣

公債掛

何 某 殿 印

明治 年 月 日

甲某寄留人ナル時ハ左之通

本貫何府華士族カ
縣平民カ

何府縣下何大區何町何番地寄留

何所何番地居留

乙 某 殿

右ノ通タルヘシ尤施行濟ノ分ハ此限ニ非ス

(第五百條) 明治八年七月十四日第百十七號御布告

本年五月第九十五號布告改正新舊公債證書發行條例中第

四條第壹節金額內譯合計表差出方每年十月三十一日ヲ

毎年十一月十日ニ改定候條此旨布告候事

新舊公債證書發行條例附錄

九六六 (第五百一條) 明治七年第百九十一號十一月十四日指令宮

崎縣伺

公債證書所持ノ者餘人へ譲リ渡セシ旨證書へ書載シ差
出シ候處掛リ官員誤テ他粹へ縣名官姓等ヲ記載セシ故
ヲ以テ二十五圓ノ證書一枚不用ニ屬シ大藏省へ引替申
出候時機相及ヒ右官員待罪書差出候ニ付處分ノ儀已ニ
債主へ渡シ置レタル證書トイへ私物ニハ見做シ難ク
候ニ付諸稅鑑札或ハ通行印鑑誤毀ノ例ニ比擬シ處斷致
シ可然哉

指令

公債證書ニ縣名官姓ヲ署スルニ位置ヲ誤ル者ハ其罪
ヲ問ハス

但誤署スル者ヨリ其證書ヲ添へ事由ヲ申立書替ヲ
乞フハ公債證書條例第十條第四節第五節ノ手續ニ
準ス可シ

(第五百二條) 明治八年第十六號一月二十八日指令長野縣

伺

新舊公債證書發行條例中御改正增加第八節ニ都テ讓渡
シ賣買等此手續ヲ厭ヒ候歟或ハ心得違ニ候共相對取引
ヲ爲シタル時ハ其金高三割ノ罰金ヲ申付へク云々ト有
之ハ勿論雙方へ科シ候義ト存候

指令

伺之通

○家祿引換公債證書發行條例

(第五百三條) 明治七年三月二十八日第三十九號御布告

家祿奉還ノ者へ相渡候公債證書發行條例別冊ノ通相定
候條此旨布告候事

別家祿引換公債證書發行條例

明治六年第四百二十五號ヲ以テ布告スル百石未滿ノ家祿奉還ノ者ヘ附與スル爲公債證書ヲ發行致スニ付制定シタル條々左ノ如シ

第一條 此公債證書ハ五百圓三百圓百圓五十圓二十五圓ノ五種ヲ製造シ持主ノ名前ヲ證書面ノ棹内并大藏省ノ元帳ヘ書載セ割印ヲ爲シ相渡スヘキモノ、名面證書ノ種類等詳明ニ目錄ヲ添ヘ大藏省ヨリ其管廳ヘ相渡スヘシ

第二條 各地方廳公債掛ニ於テ家祿引換公債證書ハ別ニ簿冊ヲ製シ名面金高證書ノ種類ヲ登記シ官廳ノ印ヲ以テ證書ヘ割印シ渡方ヲ爲スヘシ

第三條 此公債證書ハ年八朱ノ利附ニシテ其利息ハ年

々十一月一日ヨリ十五日迄ニ各管廳ニ於テ拂渡スヘシ右ニ付證書所持人混淆セサル爲十月一日ヨリハ證書ノ賣買讓渡等見合スヘシ則十一月一日所持人ノ數ヲ取調ヘ其季ノ拂方ニナルヘキ名面并金高内譯合計表雛形ハ追テ作り十月十五日迄ニ大藏省ヘ差出スヘシ大藏省ニ於テハ猶檢査ノ上不都合之ナキニ於テハ其金高ヲ管轄廳ヘ送達スヘシ

第四條 右管轄廳ニテ取調猶大藏省ニテ檢査ノ手順且往復ノ都合ニ因リ十一月一日ヨリ利足拂方ノ手續行届難キ節ハ其期限前ニ何月何日拂渡スヘキ旨ヲ布告書又ハ新聞紙等ニテ所持人ニ通知セシムヘシ尤利息拂方ノ節ハ證書面ニ附添シタル小札ヲ切取引替ニ渡スヘシ右拂濟ノ上明細表雛形ハ追テ作り小札ト共

ニ大藏省へ送納スヘシ

第五條 公債證書ノ元金ヲ拂渡スニハ家祿引換相渡候
 三箇年目ヨリ七箇年ノ間ニ政府ノ都合ニ寄リ抽簽ノ
 法ヲ以テ拂渡スヘシ右抽簽ノ法ハ證書ノ記號ヲ明ニ
 シ拂渡スヘキ金高ヲ定メ此金高ニ證書ノ高ヲ部分シ
 東京大坂西京其他證書所持人多キ場所ヲ撰大藏省ノ
 官員出張シ其地方官ノ公債掛ト管下ノ證書所持人十
 人以上ヲ集メ立會ノ上公債掛ノ官員其簽ヲ抽クヘシ
 則其簽ニ當リシ部分ヲ其年拂戻スヘキモノト定ムヘ
 シ

第六條 抽簽ノ手續相濟賦當ノ記號公定スレハ立會ヲ
 ル證書所持人ヨリ其抽簽ノ法公正ナル事ヲ保證スル
 爲書面差出サシメ然ル後何記號證書ハ何月何日何所

ニ於テ元金拂戻スヘキニ付受取トシテ證書持參致ス
 ヘシ尤所持人混淆セサル爲メ何月何日ヨリ賣買讓渡
 等ハ見合スヘキ旨ヲ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク世上
 ニ知ラシムヘシ

第七條 右元金拂戻スヘキ記號ノ證書賣買讓渡見合ス
 ヘキ期限ニ至ラハ地方廳ノ公債掛ニテハ管下ニ右記
 號ノ證書散布スル處ノ員數ヲ取調名面并金高内譯合
 計表ヲ作り十五日間ニ大藏省へ差出スヘシ大藏省ニ
 於テハ猶取調ノ上不都合ナケレハ其地方廳へ回送ナ
 シ拂方ヲナサシムヘシ時宜ニ寄リ大藏省ノ官員出其
 證書ハ拂濟ノ證ヲ印シ明細表ト共ニ直ニ大藏省ニ送
 納スヘシ

第八條 此公債證書ハ外國人ヲ除クノ外何人ニ限ラス

讓渡并賣買勝手治第ヲルヘキニ付其節ハ雙方示談整
 ヒシ上ニテ甲ノ方讓主ヲ云フハ證書面粹内ヘ記名調印
 シ別ニ其證書ノ種類記號金高月日及乙人ナル者買フノ
 姓名等ヲ認メ其證書ト共ニ甲ヨリ之ヲ其管轄廳ヘ差
 出スヘシ管轄ノ公債掛ハ其次第ヲ糺シ粹内ヘ年號月
 日ヲ記シ檢印ヲシテ之レヲ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ詳記
 スヘシ尤其家相續人ヘノ遺物ハ書替ニ及ハスト雖モ
 其管轄廳ヘ届出ヘシ其廳ニテハ簿冊ヘ其譯并名面年
 號月日等登記スヘシ

但所持人此手續ヲ厭ヒ候歟或ハ心得違ニ候ニ相對
 ノ取引ヲ爲シタル時ハ其金高三割ノ罰金ヲ申付ヘ
 シ且其間ニ紛議ヲ生スルニ取上サルヘシ

第九條 手續相濟證書ヲ甲ヨリ乙ニ受取レハ乙ハ管轄

違ナレハ其證書ノ金高種類記號及ヒ甲ノ名面取引ノ
 年號月日等詳記シ之ヲ其管轄ニ届出ヘシ乙ノ管轄ニ
 テハ簿冊ヘ其證書ノ種類記號金高及ヒ其名面取引ノ
 年號月日ヲ登記スヘシ尤同管下ナレハ別ニ届出ルニ
 及ハス

第十條 右證書管轄違ニテ讓渡賣買等ノ事アレハ甲ノ
 管轄ヨリハ即日乙ノ管轄ヘ其證書ノ種類記號金高及
 ヒ名面取引ノ年號月日ヲ詳記シ送達スヘシ若其送達
 ナ甲ノ管轄ニテ怠ルアレハ乙ノ管轄ヨリ之ヲ督促シ
 主任ノ官員ハ違令ノ罪ヲ以テ處スヘシ且大藏省ヘハ
 一箇月分ヲ翌月五日迄ニ取調遲滞ナク届出ツヘシ
 但乙ノ管轄ニテハ右送達之ヲキ間ハ猶賣買スルヲ
 差留置ヘシ

第十一條 此證書借金ノ引當又ハ質物トシテ他人へ預ケ置ク事勝手次第タルヘシト雖モ其拂戻スヘキ元金利足ハ其本主ニ下渡スヘシ尤本人調印ノ委任狀ヲ持參スル時ハ何人ニテモ相渡スヘシ又質入流込ト相ナル時ハ第八條ノ手續ヲナシテ其所持人ノ名面ヲ改ムヘシ

第十二條 華士族平民共此證書所持致シ居管轄替相成候節ハ甲管廳ヨリ乙管廳へ相達候儀ハ第十條ノ通タルヘシ本人ハ所持ノ證書種類記號金高及轉籍ノ年號月日住居ノ地名等詳記シ乙管廳ニテハ簿冊へ登記シ割印シテ下渡スヘシ

第十三條 寄留人へ證書讓渡賣買申出候節ハ寄留地ノ管廳ニ於テ本管ノ人民同一ノ取扱ヲ以許可致シ不苦

就テハ年々元利金拂渡モ其廳ノ主務タルヘキ事

但後日本籍へ復歸致セシ節ハ即日公債牒簿上ヲ削除シテ本人ノ管廳へ證書ノ種類記號番號及讓渡相成候年月日手續共通達スヘシ本人ヨリハ所持ノ證書種類記號番號及復歸ノ月日住居地名等詳記シ本貫管廳へ届出ヘシ管廳ニテハ簿冊へ登記シ割印シテ下渡スヘシ改正布告第五百五條參看

第十四條 公債證書所持人若證書ヲ取失フカ又ハ盜難ニ逢フ時ハ直ニ何號何番何高ノ證書ヲ紛失又ハ盜取ラレシ由ヲ其管廳ニ届出ヘシ管廳ニテハ速ニ其趣ヲ管内へ布告シ且大藏省へ公布スヘシ各地方廳ニ於テハ公告書又ハ新聞紙等ニテ普ク人民ニ知ラシムヘシ若管内ニ其種類記號ノ證書所持ノ者アレハ取押へ推

糺ノ上其次第ヲ大藏省へ届出へシ

第十五條 右ノ證書六箇月ヲ過テ發見セサレハ大藏省ニテ其證書ニ換へキ新證書ヲ作り其管廳へ達シ之ヲ所持人へ相渡スへシ尤六箇月間ノ利金ハ證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同之ヲ拂渡スへシ

但此新證書ハ云々ニ付相渡ス趣大藏省并地方廳共簿冊へ登記シ置へシ此末類似ノ箇條ハ總テ同様相心得へシ

第十六條 水火災ニテ證書流失燒失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニテ其由ヲ管轄廳ニ申立へシ其廳ノ公債掛ハ其次第ヲ推究シ判然タレハ直ニ大藏省ニ申立へシ大藏省ニテハ申立ニ隨テ新證書ヲ作り其管轄廳ニ達シ所持人ニ相渡スへシ

但管轄ノ公債掛ニテ取糺ノ節判然クラサレハ第十
三條ニ隨テ處置スへシ 訂正布告第五
百四條參看

第十七條 若又水火災ニテ其證書ノ部分燒切レ又ハ文字消滅シテ通用シカタキ程ナレハ殘餘ノ紙片ヲ添へ書面ニテ其管廳へ申立へシ其廳公債掛ハ其證書ノ紙片ヲ添へ大藏省へ申立證書ヲ得テ所持人へ渡スへシ

第十八條 何人ニ拘ラス公債證書ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿チ糊付スル等ノ事ヲ爲スへカラス若犯ス者アレハ裁判ノ上其高十倍以上ノ罰金ヲ命スへシ或ハ又贗造シ人ヲシテ摸擬セシメ又ハ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造ト知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖書文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品離

形ノ圖畫文字等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第十九條 政府ノ都合ニ寄リ要用ノ事アレハ何時ニテ

モ此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スヘシ尤增補改正等

アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ增加布告第五百五條參看

(第五百四條) 明治七年四月二十五日第四十七號御布告

第三十九號布告訂正

家祿引換公債證書發行條例第十六條但書ノ内十三條ト

有之ハ十四條ニ候條此旨布告候事

(第五百五條) 明治七年六月十七日第六十五號御布告

本年三月二十九號布告家祿奉還ノ者ニ相渡候公債證書

發行條例中左ノ通改正增加候條此旨布告候事

第十三條改正

寄留人ニ證書讓渡云々

但後日本籍ニ復歸致ス時ハ本人ヨリ證書引繼ヲ願出

ルハ即日公債帳簿上ヲ削除シテ以下從前ノ通

增加第一條

家祿奉還ノ者ニ相渡候公債證書ヲ所持致居候者他府縣

ニ寄留後其土地ノ人民或ハ他府縣下ノ人民ニ讓渡賣渡

ヲ欲スル歟又ハ相續人ニ遺物ト成ス時ハ寄留人ヨリ寄

留ノ地名并證書ノ記號番號金高枚數且可讓渡者ノ住所

姓名ヲ詳記セル實印ノ申狀ヲ以テ本管廳ニ可願立本管

廳ニテハ是ヲ聞届公債帳簿上ヲ削除シ即日其詳記セル

申狀ノ寫ニ添翰シテ寄留先ノ府縣廳ニ送達スヘシ其府

縣ニテハ即本人所持ノ證書種類記號番號及取引ノ年號

月日等相糺シ相違無之ニ於テハ都テ讓渡賣渡ノ手續ヲ

示セル條例ニ照準シテ取計フヘシ尤買主寄留人ヲテハ
第十三條ノ通タルヘシ

證書讓渡賣渡ノ節記名調印與書雜形

一 此證書是迄拙者所持ノ處貴殿へ讓渡候事實正也

明治年月日

甲 某 印

何府下何大區何小區何町何番地

乙 某 殿

本文之通相違無之者也

何府公債掛

明治年月日

何 某 印

乙某寄留人ナル時ハ肩書左ノ書式ヲ用ユ

本貫何府華士族
縣平民歟

何府下何大區何小區何町何番地寄留

乙 某 殿

○諸犯則

(第五百六條) 明治六年四月二十二日大藏省第六十五號達

酒造密造蠶種濫製等犯則ノ者有之候ヲ他ヨリ訴出候者
有之ニ於テハ過料並取上ケ諸品拂代ノ内分合ヲ以給與
可致旨各規則ニ記載有之候處右ハ調方混淆煩敷廉モ有
之候ニ付取立候過料並諸品拂代トモ悉皆上納給與金ノ
儀ハ別途受取方可申立旨相達候向モ有之候處本年ヨリ
右過料等司法省へ上納候ニ付テハ過料金等ハ同省へ相

納給與金ハ當省へ申立受取候様ニテハ双方へ差跨格別
手數モ可相掛ニ付爾後都テ規則ノ通相心得處分可致事

(第五百七條) 明治六年五月二十九日本省第八十三號達

鐵道銃砲蠶卵紙等諸罰則ヲ犯ス者ハ新律綱領ニ依テ擬
斷セヌ其各罰則ヲ以テ處斷可致此段爲心得相達候事

(第五百八條) 明治七年六月十九日第六十七號御布告

酒造絞油商船並生糸牛馬賣買鑑札規則中左之通追加候
條此旨布告候事 更定布告第五
百九條參看

酒造 絞油 商船 生糸 牛馬

右諸鑑札遺失又ハ誤テ毀損スル者ハ科料金七十五錢可
申付事

但酒類釀シ高鑑札並絞油器械鑑札モ同斷タルヘキ事

(第五百九條) 明治八年十一月十日第六十六號御布告

明治七年^六第六十七號ヲ以布告候酒造絞油商船並生糸
牛馬賣買鑑札規則追加ノ儀相廢シ更ニ商船生絲牛馬賣
買鑑札規則中左ノ通追加候條此旨布告候事

商船 生絲 牛馬

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ
其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事

但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金貳拾錢可相納事

(第五百十條) 明治八年十二月二日第八拾三號御布告

自今公文中總テ計算上一倍ノ稱呼ヲ止メ從前ノ諸規則
等ニ一倍ト記載有之分ハ二倍ト改正候條此旨布告候事

但譬ハ原金高一圓ノ二倍ハ二圓十倍ハ十圓ト計算候

儀ト可心得事

諸犯則附錄

(第五百十一條)

明治六年第六十一號九月十四日指令堺縣

本年三月中御布告ニ因テ取立候諸科料ノ類蠶種密賣過料金絞油破禁入港無鑑札船罰金等一廉限書立贖贖金上納ノ期月ニ其御省へ可納段相心得候其后五月中又第八十三號御布告鐵道銃砲蠶卵紙等ノ諸罰則ヲ犯ス者ハ新律綱領ニ依テ擬斷セス其各罰則ヲ以テ處斷可致旨相達候然ルニ太政官第二百六號御布令有之從前ノ御指令律案援引不相成參勘仕候所新例第百條凡稅糧ヲ納ムルニ限ニ違フテ完セサル者ハ明治六年第二百八十五號布令ニ依テ處分スト相見候而已ニテ蠶種密賣絞油破禁入港無鑑札船或ハ鐵道銃砲證券印紙郵便造酒造醬油牛馬鑑札出版條例等ノ諸破禁犯罪者ハ無正條ヲ以テ取計方致

安心兼申候末段ノ事故ハ一切其罪則ヲ照シ處斷可然哉

指令

蠶種鐵道郵便等ノ諸規則ヲ犯ス者ハ總テ其各罰則ニ照シ處斷スヘシ第二百六號御布令ノ單行頒布ノ律例ト有之ハ新律綱領中ノ條件ニ付條例創定又ハ改正等ノ目ヲ以テ頒布スル者ヲ云諸罰則ハ此限ニアラサル

事

(第五百十二條)

縣伺

明治六年第六十四號九月十九日指令北條

清酒其外密釀並牛馬無鑑札ニテ賣買ノ者科料金申付候節難澁者ニテ田畑ハ勿論家屋敷家財ニ至迄入質等ニ致シ居右科料上納難出來者ハ如何取計可然哉家屋敷而已無難所持致居候節ハ爲賣拂候テモ上納申付可然哉賣拂

候共科料金ニ不足候節ハ如何相心得可然哉

指令

諸規則ヲ違犯シ科料金申付候節無力ニシテ上納難出
來者ハ罰身代限ノ處分ニ止ル尤科料罰金等ハ尋常貸
借トモ事替リ候間一度身代限申付候上取上ヘキ身代
無之者ハ其儘放免スヘシ以後身代持直シ候モ再度取
上ルニ不及事

(第五百十三條) 明治六年十二月四日指令東京裁判所伺

蠶種或ハ郵便其他諸規則ヲ犯シ科料罰金等ニ處スヘキ
者悔テ自首スト雖モ既ニ其規則アルヲ知テ犯セシ上
ハ難被免筋ニ可有之哉又ハ犯禁ノ物品或ハ賣却代金等
ハ沒官シ其科料罰金等ノ罪ハ首免ヲ與ヘ可然哉
指令

規則アルヲ知ト雖モ悔テ自首スル者ハ其情狀ニヨリ
自首律例ニ照シ放免又ハ減等ス可シ其犯禁ノ物品或
ハ代金等ヲ沒官スルハ伺之通

(第五百十四條) 明治六年十二月 日不 指令滋賀縣伺

伺書之

指令

諸規則一般ノ罰金ハ官吏華士族老少癡疾婦人等ノ區
別ナシ處分スヘシ

但シ懲役絞罪等ノ刑名ヲ掲クル者ハ律例ニ據ルヘ
シ

(第五百十五條) 明治七年第六十號三月二十三日指令宮崎

縣伺

遠隔邊僻ノ土地在住ノ者等御布告並ニ諸規則ヲ誤解シ

或ハ地方ノ布達洩漏ヲ以テ制令ヲ知ラス令ニ違ヒ罰則
ヲ犯ス者ハ如何處斷可仕哉且布達洩漏ヲ致シ候地方官
ハ事應奏不奏ノ條下司ニ行ス可シテ行セサル者ニ照シ
可申哉

指令

御布告及ヒ諸規則等各人民ニ公布スルノ後違犯ノ者
アレハ各罰則ニ照シテ處分ス可シ誤解ヲ以テ罪ヲ免
ル、ヲ得ス地方官於テ遺漏又ハ遅延シテ公布セサレ
ハ各人民未ダ知ラス違犯スト雖モ罪ヲ科ス可カラス
如此ハ其責地方官ニ在リ御布告及ヒ諸規則等ハ遺漏
遅延ナク公布スヘシ且僻遠ノ小民無知朦昧誤解ノ者
モ之レ有ル可シ右ノ輩ハ懇ニ説諭ヲ加ヘ了解遵守セ
シメ犯者之レ無キ様ニ注意ス可シ布達ヲ遺漏セシ官

吏ハ違令輕重ニ問ヒ贖ヲ聽ス

(第五百十六條) 明治七年第七十二號四月十五日指令島根

縣伺

銃砲規則ヲ犯シ自首スル者ハ自首ノ情狀ニ依リ自首律
例ニ照シ免罪或ハ科料ヲ減等スト御指令相成候處譬ハ
人ノ告ント欲スルヲ知テ自首スルモノ自首律ニ依レ
ハ減二等ニ從フ可キ處科料五十錢ヨリ二等ヲ減セハ幾
十錢ノ科料ヲ徵シ可然哉且又郵便犯罪等ノ如キモ自首
スレハ其情狀ニヨリ免罪或ハ罰金ヲ減等スヘキ乎果シ
テ然ラハ其等級ヲ立ル何ノ權衡ヲ以テ可定哉

指令

人ノ告ント欲スルヲ知テ自首スル者ト雖モ其犯狀
ト罪ノ種類トニ依リ各輕重アルニ付減等法ヲ豫メ規

定セサルハモト裁判官ノ意見ニ任ヌヲ以テナリ故ニ
其時ニ臨ミ情狀ヲ酌量シテ自首律ニ照シ其本罪相當
ト思量スル罰金高ノ内ニテ適宜ニ減等スヘシ
但郵便罰則モ亦同シ

(第五百十七條) 明治七年第八十五號五月七日指令若松縣
伺

明治六年十一月中蠶紙賣買及ヒ酒造等犯則自首ノ者ノ
儀ニ付相伺候處諸規則ヲ犯シ自首スル者ハ其情狀ニヨ
リ自首律例ニ照シ放免又ハ減等スト御指令ニ候處其犯
人人ノ官ニ陳告セント欲ルヲ知テ自首スルキハ其自
首條例ニ依リ本罪ニ二等ヲ減ストアルニ照シ百圓ノ罰
金ハ二十圓ヲ減シ八十圓ニ處スヘシ哉何レヲ據トナシ
可然哉

指令

人ノ官ニ陳告セント欲ルヲ知テ自首スル者ト雖モ其
犯狀ニ依リ各輕重アルニ付減等法ヲ豫メ定規セサル
ハモト裁判官ノ意見ニ任ヌヲ以テナリ故ニ其時ニ臨ミ
情狀ヲ酌量シテ自首律ニ照シ其本罪相當ト思量スル
罰金高ノ内ニテ適宜ニ減等スヘシ

(第五百十八條) 明治七年第百十七號六月二十七日指令三
重縣伺

第一二類證印帳簿其他諸職業鑑札ヲ遺失スル者ハ通行
印鑑ヲ遺失スルヨリ輕キヲ以テ其罪ヲ問ハス候テ可然
哉

指令

證印帳簿ヲ遺失スル者ハ其罪ヲ問ハス酒造其他ノ鑑

札ヲ遺失スル者ハ本年第六十七號布告ニ照シ處スヘシ

(第五百十九條) 明治七年第百十八號六月二十八日指令滋

賀縣伺

先般凡ソ犯禁ノ物ハ盜贓トハ異ナルニ依リ已ニ費用スレハ縱令資力アル者ト雖モ追償セシムルニ及ハス候哉ト相伺候處伺ノ通ト御指令相成候ニ付蠶種取締規則其他諸規則ヲ犯シ官沒スヘキ物品及ヒ賣拂代金等モ已ニ費用スレハ右御指令ニ照准シ追徴スルニ及ハス候哉又ハ右諸規則ハ一事ニ付テ誤ル儀ニ付其品取上ケ候ハ罰ノ一廉ニモ相成候儀ニ付右御指令ニ拘ハラヌ已ニ費用スル者モ追徴致候哉

指令

蠶種取締規則等ノ中品物及ヒ賣拂代金沒官ノ正文アルハ費用スト雖モ之ヲ追償セシムヘシ

(第五百二十條) 明治七年第百二十六號七月十三日指令滋

賀縣伺

賞譽ヲ貪ラントシ或ハ人ヲ罪ニ陷ントスルニリ蠶種其他諸規則ヲ犯スト誣告スル者ハ訴訟律誣告條ニ照シ告人ニ反坐スルニ諸罰則ノ罰金ヲ以テスル手又ハ告上不實或ハ不應爲等ノ律ニ照シ處斷シテ可然哉

指令

訴訟律誣告條ニ照シ告人ニ反坐スルニ諸罰則ノ罰金ヲ以テスヘシ

(第五百二十一條) 明治七年第百四十號八月二十四日指令

新治裁判所伺

改定律例第百八條ハ刑法ニ關係無之ニ付刪除候旨本年第二十九號御布告ノ通ニ付稅糧ヲ納ル限ニ違フ者ハ利息ヲ加ヘ府縣ニ於テ取立猶其年七月ニ至リ相滯ル節ハ聽訟課ニ於テ身代限ノ處分可致所清濁酒釀造等ノ諸雜稅上納ノ日限遷延スル者加利息ノ御規則無之ニ付府縣ニ於テ精誠催促稅ノ本金取立候迄ニテ猶不納ノ節ハ聽訟課ニ於テ正稅同様身代限ノ處分可致儀ニ候哉

指令

伺之通

(第五百二十二條) 明治七年第五百五十二號九月二十二日指

令山形縣伺

七年六月十九日太政官御布告第六十七號酒造絞油商船並生糸牛馬賣買鑑札規則追加右鑑札遺失又ハ誤テ毀損

スル者ハ科料金七十五錢ト有之所水火盜難ニ因テ毀失スル者ハ不坐候テ可然哉

指令

伺之通

(第五百二十三條) 明治七年第五百八十一號十一月五日指令

滋賀縣伺

郵便罰則其他諸規則改正前ノ犯罪改正後ニ發覺スルハ是亦斷罪依新領律條例ヲ比引シ處斷シ可然哉

指令

其規則改正前ノ所犯ハ舊規則ニ依リ處罰スヘシ

(第五百二十四條) 明治七年第五百八十五號十一月八日指令

大分縣伺

諸罰則ヲ犯ス者モ舊惡減免ノ法ヲ用ヒ可然哉果シテ然

ハ其所犯ノ輕重ニヨリ減免方如何區分致シ可然哉

指令

舊惡減免法ヲ用ヒス

(第五百二十五條) 明治七年第百九十一號十一月十四日指

令 埼玉裁判所伺

凡酒造絞油等ノ鑑札遺失及ヒ誤テ毀損スル者七年第六十七號公布有之候處爰ニ失火類燒ノ爲ニ其鑑札ヲ遺失シ縣廳ニ申シ改テ鑑札願受ル後遺失セルト云フ前ノ鑑札ヲ見出シ再ヒ上申スル者アリ其一旦遺失スルハ水火盜難ニ係ル例ニ擬シ罪スルナシト雖モ其鑑札新舊二重ニ相成ニ付何レノ一方ヲ取上地方廳へ還付スヘキヤ若シ新鑑札ノ方ヲ取上ケ候トモ既ニ上納致候鑑札料ハ還下スルニ及ハサル哉

指令

舊鑑札ヲ上納セシムヘシ鑑札料ハ還付スルニ及ハス

(第五百二十六條) 明治七年第百九十八號十二月二日指令

山形縣伺

科料罰金ニ處斷ノ者納贖ノ儀改定律例第三十三條ニ准據シ五日內ニ納完セシメ若シ無力ニテ限內納完スル能ハサレハ直ニ身代限ニ處シ可然哉又ハ多寡ニ依リ延期ノ遲速モ可有之哉

指令

金員ノ多寡ニ拘ハラス直ニ身代限ニ處分スヘシ

(第五百二十七條) 明治七年第百九號十二月二十三日指

令 鳥取縣伺

凡官吏諸罰則ヲ誤認シテ過當又ハ不足ノ罰金ヲ取立ル

者ハ何律ニ依リ處斷致シ可然哉且同察檢舉スレハ改正
ヲ得ハモノニ付其罪ヲ問ハスシテ可然哉

指令

諸罰則處斷ノ失出入ハ其罪ヲ問ハス

但貼斷シテ其罰金ヲ過分ニ取立タルモノハ其過分
ヲ還付ス可シ

(第五百二十八條)

明治八年第十號一月十八日指令石川縣

伺

爰ニ證券印紙ヲ不足ニ貼用ノ證書ヲ授受セシモノアリ
御規則中第四則第七條ニ照シ渡主ノミ減稅高十倍ノ過
料可申付處當該官吏失錯ニ係リ脫稅ノ者ト看認メ渡主
ハ十倍ノ過料ト誤テ擬定シ其反對シタル過料既ニ宣告
相成候後其官吏自ラ檢舉スル時ハ如何處置可然哉

但本文過剩ニ取立候金ハ還却シ其不足ノ科金ハ律上
輕キニ失スル者ト看做シ更ニ取立ルニ不及候哉

指令

諸罰則處斷ノ失出入ハ其罪ヲ問ハス

但書伺ノ通

(第五百二十九條)

明治八年第二十號二月八日指令大分縣

伺

諸罰則犯罪ノ者ヲ出訴致候者ハ賞金給與方ノ儀ハ昨六
年大藏省第六十五號御達第五百六ニ依リ各罰金ノ内ヲ
以テ給與候儀ハ勿論ニ候ヘモ若シ犯人無力ノ節訴人へ
可賜金額ハ已ニ徵収スル各罰金ノ内ヲ以テ給與シ不苦
儀ニ候哉

指令

伺ノ通

(第五百三十條) 明治八年第二十五號二月十八日指令山形

縣伺

蠶種生糸其他犯則ノ者見出シ訴出候者へハ取上品無之
節ハ科料金ノ十分一給與候様明治六年十一月第三百七
十九號御布告第八十條參看有之候處假令ハ犯則ノ者百圓ノ科
料申付ルニ本犯貧困ニシテ身代限ニ處シ收取スル金十
圓ナル時ハ全部ヲ訴出候者ニ給與シ可然哉

指令

伺ノ通

同上身代限收取スル金五圓ナル時ハ其不足ノ儘給與シ
可然哉

指令

身代限申付候上科料金ノ全額ニ不足又ハ取上クヘキ
身代無之候共訴人へノ賞譽ハ規則ノ通別段差遣シ可
申事

(第五百三十一條) 明治八年第二十七號二月二十四日指令

水澤縣伺

警へハ改正鳥獸獵規則ニ觸レ一ハ鑑札ヲ借リ一ハ禁獵
場ニ擅獵スル等一時ニ發シ及ヒ第二類十圓未滿ノ貸借
金高ニ界紙ヲ用ヒサル証券授受致シ又第一類使用ヲ爲
サル預リ証文十圓以上ノ金高ニ壹錢印紙ヲ貼セス授
受シ置キ同一ニ相發スル如キハ並一則上ノ違犯ト雖モ
種類箇條相異ナル儀ニ付廉々各別ニ處分スヘクヤ

指令

各別ニ處斷ス可シ